THE Y.W.C.A. MONTHLY

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可
大正十一年三月一日發行（毎月一回一日發行）

女子青年界

三月號

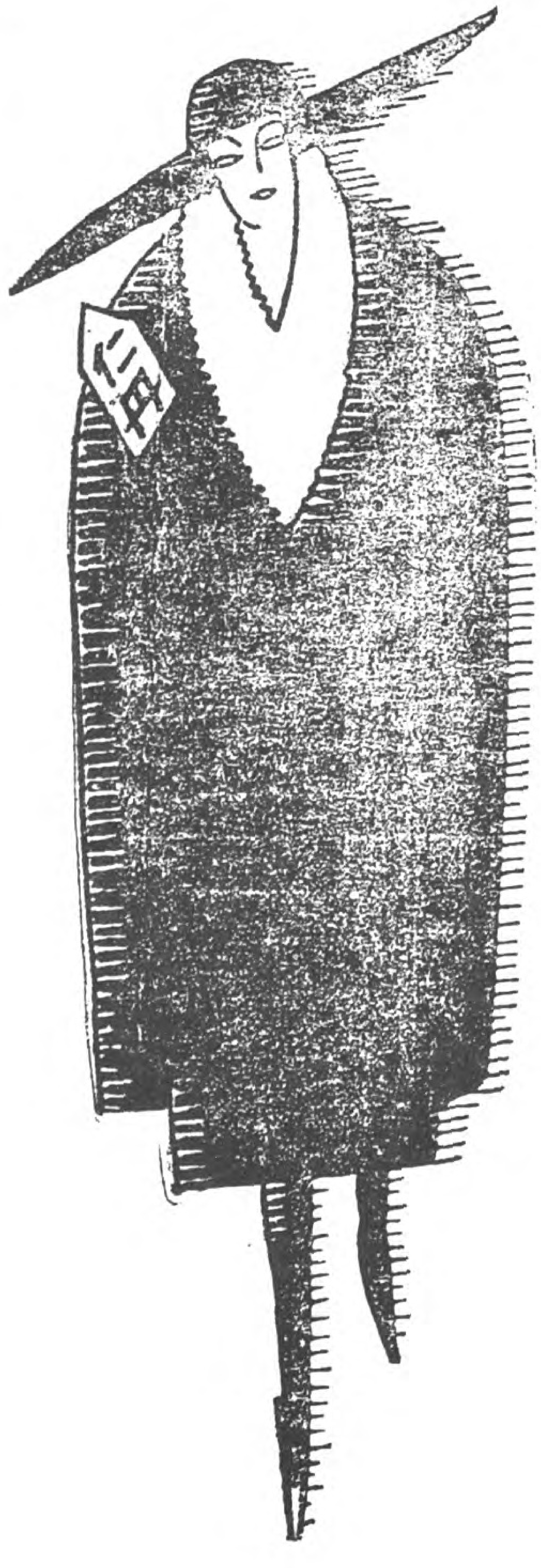
女子青年界第十九卷三月號

Y.W.C.A.

重要目次

金言

有徳なる事業には常に幸福の其側に侍するあり（西諺）



花まつ君よ懐には仁丹

女子青年界目次

第十九巻 第三號

大正十一年 三月號

「診察毎朝及毎夕　但祭日及日曜之他」
院長診察　月、木、金、午前及午後六時
林、峯間兩副長は目下當院に在勤

東京市麹町區三番町三十番地（市ケ谷見附内）
電話六二番
番町五一六番

東洋内科醫院

院長　醫學博士　高田畊安

南湖院

電話ちがさき二番
神奈川縣茅ケ崎海濱（從停車場半里）
河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤
院長診察　土曜日午後　入院診後臨需
「診察毎朝　但祭日及日曜及土曜之他」

牧師武本喜代藏著

新刊

『體驗の基督』

定價三十五錢

長男を失ひし記念として涙の裏に書かれたる著者の信仰告白にして活ける基督の證明也、これは千九百年來幾多基督者の實驗せし所、著者が大正九年以來特に新たに示されし靈的生命の異源泉也、信者は之に依つて信仰に燃やされ、求道者之に依つて基督教の靈的神秘的方面を了解するを得ん。

同　牧師主幹

月刊「靈化」第二十號（一月十五日發行）より八頁改正定價一ケ月十錢

武本牧師著

第六版

『歡喜に溢れて』

金壹圓六十錢
郵稅不要

發行所　大阪市北區樽屋町五
文書傳道會
振替口座大阪五五九二〇番

哲學概論

帆足理一郎著

拾版

菊判天金總布製　函入四百五十頁　定價四圓五十錢　郵送料十八錢

專制主義貴族主義のドイツ哲學は破產し、絕對主義論理主義の形而上學は破滅した。今や哲學も實際經驗の鍛冶場に走り、勞働の膏血に洗禮され、民衆文化の琴線に觸れたものでなければならぬ。著者はヘエケル派の哲學に養成されて、ロッツェの人格主義に走り、轉じて實際主義の堂奥に參し、今や進化論的生命主義の哲學を提げて吾が學界に呼應し、傳統哲學の迷妄を破つて新哲學の曉鐘を鳴らしつゝある。本書は早稻田大學に於ける講義の概要であつて、簡單平明、尙哲學の各部門に亘つて在謂問題を取扱ひ、一々明快なる批判を試みてゐる。加ふるに行文流麗、何等澁晦の跡なく、文壇の新人たる著者の面目躍如たり。單に初學者の入門として適切なるのみならず、新哲學の概觀として稀有の名著である。

〔目次〕

發兌元　東京市麴町區隼町廿町地　振替口座東京二〇九一四　洛陽堂　(電話九段六六九番)

國產美術 **漆器專門**

デスクセット　手袋箱　箪笥

半巾箱　屛風　貰箱

額類　針箱　寫眞類

サラードボール　盆類　フィンガボール

寫眞本　ティー、テーブル

美術笠付電氣燈一式其他外人向漆器類一切

御注文品は御好みに依入念調製いたします

横濱市辨天通四丁目六十二番地

漆器雜貨輸出商　**吉川眞次郎商店**

電話　本局　一七一九番

懇切誠實を旨とし

民、刑、事件の

御相談に應ず

辯護士　**神浦靜夫**

東京市芝區白金三光町三〇七

電話　芝　五千四百四拾貳番

You are cordially invited to inspect a large display of artistic work in

IVORY

such as Carved Figures, Pendants, Beads, Toilet Articl s etc. from ¥ 1.00 to ¥ 2,009.00 per piece.

NAKAMURA'S SHOW ROOMS

17 Hongincho Itchome, Nihonbashi, Tokyo.

3 blocke west cf "Mitsukoshi"

1 block south of Kanda Station (West exit)

高尙デ珍シキ

案外ニ廉價ナ

米人ガ殊ニ好ム

象牙品

日本橋區本銀町一丁目十七(今川橋横丁)

中村證三商店

女子青年會徽章

銀臺の新しいよいピンが出來ました定價一本につき五拾錢づゝです。御入用の方は本部へ御注文下さい。

東京市神田區錦町一ノ十六

女子青年會本部

銀ブラの折は御立寄御覽下さい

舶來化粧品　上級香水
舶來賣藥　純粹藥品
テニス用具　流行新形ヅック靴

御用の方は御電話なり御葉書なり下さい

東都唯一の外人經營藥店

尾張町一ノ一

ブレットホスピタルフアマシー

電話銀座一五三五

WHEN ALONG THE GINZA.

Visit Brett's Hospital Pharmacey
The only foreign Druggist in Tokyo.

TOILET REQUISITES
PERFUMES
PATENT MEDICINES
PURE DRUGS
TENNIS GOODS
WHITE CANVAS
BOOTS & SHOES

For what you want call or write to-
Brett's Hospital Pharmacey
Owarichi Ginza, Tokyo.

取次圖書

靈光錄	定價壹圓
ルイズ	定價七拾錢
ビア・ドロ、サ	定價壹圓
聖徒となれる惡徒	定價八拾錢
眞珠姬	定價壹圓八拾錢
平和の勇士	定價壹圓九拾錢

取次所　**女子青年會本部**

東京神田區錦町一ノ十六

御申込次第至急御送附申上ます



紳士の鬚剃に
カテイ石鹸
クラブ洗粉
クラブゼリー
クラブタルカン
眉目清秀
THE IMPERIAL
製法は科學的
效力は徹底的
信用は世界的
クラブ煉歯磨
便利なる押出し
チューブ入發賣…
非常なる歡迎！

女子青年界　第十九巻第三號　大正十一年三月一日發行

進む心

河井道子

文化生活とか新時代要求とか新使命とかの叫びが毎日の樣に新聞雜誌に特筆大書されてゐますのは慶ぶべきことであります、只爰に問題となるのは是等の叫びの精神内容の點にあります。抑々文化生活は何を意味するかにつき諸先生の持論も時々見えますが一般の若き人々に御尋ねしたく存じます。

人はよく申します「或大事を成し遂ぐるには其手段を選ばず」と、是に答へるものは「其は古い人の主張で現代文化生活には適應せぬ」と申します。だがよく考へますと、昔と今と精神上に於てはどの位進歩的の差がありませう。

かの普選促進は少しく心ある者が等しく首肯する處です。今は時の問題で尚早主張も、圓熟主張もありますが普選其ものには多數者は贊成であります、然し東京に於て此運動や宣傳に藝者の力を借りるなどは普選の目的を達するに其手段の是非、正邪を問はざる好例であります。又新聞紙の傳へる處によると平和博覽會の開會當日に千人の藝者を出して來客の接待をさせ場内を賑はさんとする由、平和とはたゞに武力の戰爭中止の意見でなく、社會、家庭、個人の平和をも意味してゐます、社會や家庭の亂が國家國際の亂となりま

す。家庭、社會の濁流をなす一水源たる藝者が平和博覽會の除幕をするとは、如何にも手段を構はぬも甚しいではありませんか、依りて矯風會、女子青年會、女學校諸婦人團體等が結束して此には反抗せんとしてゐますのも眞に平和と純潔の增進を切望する赤心からであります。

平和とは正と義とがその兩翼をつくり、博愛、他愛の精神を擁護しつゝあるものであります。正と義との拔けた愛情は墮落であり、病的であります、必ずそれよりして不道德と破壞とが生じます。然るを是をしも文化生活の一種の如くに思惟してゐる者も多いのであります。如斯新時代の、現代のと申して、從來と異なつた、突飛な表情や行爲を持囃すのは決して進步を意味しません。即ち現代の思想や、宣言は新しいから共で立派で、從來のは古いから價値がないとは誰が云ひ得ましよう。新しからうが古からうが、高潔な緊張した建設的な分子を包含するものならば皆立派で、貴重く且つ又進步的のものであります。いかな新時代のものでも放縱な不純なものであれば是をすて、新時代を淸めて高めて美化するに努力して始めて有意義であり。此點より推論しますと所謂現代流行兒の文士等の感想や、小說の中には實に靑年男女に毒瓦斯を與へるものがあると申したとて過言ではありますまい。姉妹方の中にも此等の中毒に罹つた方がありましよう、友人の中に目下其害毒に苦む方がありましようが、斯の如きが文化だの新生だのと稱へて益々肉的な、利己的な人物となりつゝあるとしたらば是は文明の逆行であり、惡の世界の建設を助長させつゝあると云ふべきでしよう。進むと云ふは聖化――美化――義化することとで。是には聖と美と義との中樞がなくてはなりません。又其が只に議論や推定や文學の上のみでなく、人格的のものでなくては私共に滿足を與へません。此滿足を基督が與へ給ふゆえに昔も今も基督の眞に崇らるゝ處には必らず進步が個人、家庭、社會、國家に現はれる樣になるは實際であります。

今や學校を卒業されて希望に輝く姉妹方が、今後何をせんかと心を碎かるゝ事も多いでしょう。如何なる立場に在りても進まんとの心丈は大切に養はねばなりません。或人々は時勢に後れて仕舞つたとか、古臭いとかと他より冷笑されてゐます。彼等の中には決して遊惰な人のみでありません。却て忠實に學校を敎へたり、婦人會の幹部になつたり、交際界によく顏出しする人もありますが、何故時勢後れとか、無能とか、退步とか評されますか。つまり學校を卒業すると其後より以上に進まんと努力をしないで、敎職からいへば研究もしないで、自分が僅に修得した丈を又繰返して年少者に與へてゐるのみであるに原因しましよう。「一時間敎へんとするときは二時間分の敎材を作れ」とは敎師に對しての警句であります。同樣に或は其以上に家庭を作る姉妹方は進まんことを志し意志の力で決行しなければ、主婦としては忠實な家事の働人であつても或は婦人會や交際界で重寶がられても、精神的には赤子として一生を浪費する事もあります。「智慧に於ては成人なり、惡に於ては嬰兒となれ」と昔からパウロは私共を訓戒してゐます。

爰に一人の學德才美を兼備した紳士がありました。彼は他より羨しがられた程の圓滿な家庭の主人で、其妻女は皆賢明な美女であり、加之に自分の地位は高く、財產は夫人の持參金で豐でありましたから、彼程幸福な人は世にも稀でありました。隨分高官に昇り、子女は皆立派な家庭を作り愈々今後非凡な活動を仕出すものと知人は期待しました。五年目に突然某席上で遭遇ました處、彼は如何にも變化したのに驚きました。彼は以前に增して肉付はよく以前の如く美男子で六十歲とは到底思へぬ血氣でありましたが、顏の表情に締がなく、談話に緊張の分子が何もなく、高笑は無頓着を現はし、身振は安逸と高慢とを裏切つてゐましたので、私共の失望は非常でありました。此は進む心が彼から消へ失せたからで、最早努力も、自制も、克己も他愛心も不必要視された結果であります。然し彼に私共の感想を正直に申したらば彼は驚き怒つて答へま

しよう「我は品行方正、他に不義理をなさず家に憂を殘さず、俗惡の世を免れて霽月光風に親み、切に國家の平安を祈る者也」と。世には此種類の人が多數あります、別に惡事はせぬ、自分は自分で他と殆んど沒交渉で、安樂に送日してゐるから是でよしと滿足がつてゐる人は婦人の中になかく大勢あるではありませんか。善き方面に進まんと志すものは到底こんな程度で何の役に立ちましよう。人格を築き上げるは一生涯の修行であり決して一學校を卒業した、一事業に成功した、名聲をあげた位の安價で得られるものでありません。

今一人私の深く尊敬する人があります。不思議の事には過去廿年間に五年目毎に出會ひますが、逢ふ毎に彼女は益々氣高く、美しくなるのです。最早白髪ですが、其が彼の慈顏と聰明の眼光とを如何にも美しくします。彼は到る處に數多の友人を作り、別して靑年が彼を眞面目に崇拜しますが、其引力は何處から來るかと申せば彼には進む力が不斷なのです、何によらず彼は善事には熱心に努力しますし、自分の專問は忠實に研究し、專問的の片輪にならざるために餘暇には修養又は道樂的に他の研究を怠らず、常に冷靜に道理を判斷せんと自分を訓練して居るので、泉の如く智惠が奔流して正邪の區別の早いこと、時期や人情を洞察する事の上手なこと、同情の厚い事などが他を引付ける原因であります。しかし此力即ち進んで止まぬ勢力の其泉は何處からかと問へば、此は信仰から湧きでるのであります。信仰がなくば困難を勇氣以て迎へることも打勝つことも出來ません。大膽に善事をやりだすことも出來ません。此婦人の如きは實に信仰の偉人で、彼が神に信賴して、全身全力を堵して冒險的に大な仕事をなして功績をおさめた例は餘り澤山ありすぎます。私共眞に文化生活を希望し、現代が要求してゐるものを供給せんとせば神を信じ其信仰を基調として進み奮勵するより外はないと存ます。「汝幼少ときの慾を避けて義と信と愛を追求め潔心にて主を信ずる者と和ぐべし」。

我子の學校

額賀鹿之助

一

私は今から七年前に妻と二人の子を携へて米國カリフォルニヤ州に基督教傳道の爲にまゐりました。其時に長男は恰度學齡に達したので、直ぐ米人のグランマア・スクールに入學させたのであります。前に彼地に於ける日本人排斥の一つとして日本人兒童を米人の小學校に入學させぬといふ時代もあつて、隔離敎育を强いられて居つたのであるが、私共が行つたときにはもうさう云ふことが無くなつたので、自由に入學させることが出來たばかりでなく、小供たちの間には人種的僻見など云ふ嫌な感情はなく、學友と面白く遊び戯れてゐるのである。そして日本人の兒童は米人の兒童と比べて其學業に於て決して劣らないのである。中には拔群の成績を示すものも少なくないのである。私どもの子供も二人とも同じ學校に通つて、長男は七年生、長女は三年生になるまで彼地に居つたのであります。受持の先生たちも校長さんも可愛がつてくれました。

二

昨年の八月一家を擧げて祖國に歸ることになりまして、一番心配になつたのは子供の學校のことでありました。それで日本に着くや否や學校選擇に腐心しました。あちらで日本語を敎えてゐましたが、何しろ米人の學校から疲れた頭を以て歸つて來てから短かい時間に嫌がるのを無理に詰め込むのですから少しも覺える所ではありません。敎會で日本語學校をやつてゐましたから十數名の子供を世話してあげましたが、果してどれだけの效果があつたかどうか

は甚だ疑はしくあります。彼等に取つて難かしい漢字など習ふよりも容易い英語の方が覺えるに早いし役にも立つのですから日本語を嫌がるのも無理もないことだと思ひます。夢も英語で見、遊び戯れるにも英語で叫び、初めは日本語で言ひ合ひをしてゐても喧嘩になると英語でやり合ふと云ふ譯ですから、日本語などはてんで彼等の考の中にないのであります。今では加州では日本語を日本人の兒童に一週間五時間以上敎えではならぬといふ法律が出來てそれが實施されてゐますから、英語の勢力が強くて日本語は物になりますまいと思ひます。それが米國の所謂アメリカニゼーションの目的なのです。彼地に居る日本人は到底日本語に小供を縛りつけることは不可能であると思ひます。私共の子供もさういふ譯で少しは日本語も話せるやうになつてゐましたが、學校に入れるといふ事になれば、迚ても日本で育つた子供さんたちと一緒について行くといふ事は難かしいのであつて、普通の順序を踏ますことは出來なかつたのであります。これにはホト〳〵當惑しました。いつそ中學校へ入れて試やうかとも思ひました。それで或る中學校の校長に相談しました所が、滿員で一年には入學出來ぬと云ふこと、寧ろ明年になつてから二年生の試驗を受けて這入つたらよいでせうとの事でありました。それは善い考であると思ひました。英語の方は心配はないから國語と漢文でも內で見てやればよいのであります。

三

早速神田の神保町に子供をつれて敎科書を買求にまゐりました。先づ漢文と國語の本を買ふて歸りました。さて愈々敎えるといふ段になると仲々骨が折れます。本人も一生懸命でありますが第一說明に困ります。一つの漢字にも幾樣の讀方があつて、どういふ理由でさうなのか分らない。漢文の本を開いて見ると、飯疏食飮水曲肱而枕之。樂亦在其中矣。不義而富且貴於我如浮雲といふ論語の文章がある。是れだけ文字を覺えさすにはどうしても一ケ月以上は

かゝると思ふた。內容を英語で飜譯して聞かすと、なんだそん詰らぬことかと云ふ。米國で人生をエンヂョーイするといふのと、昔の支那流の樂みとの間には天地の相違がある。人生觀が根本から異つてゐるのである。此現代的でない消極的な觀念を吹き込むのは無益なことだと私は思ふた。日本人は漢文と昔の支那道德のために世界的進步にどの位後れるか分らぬと私は思ふた。親として子にさういふ不自然なことを强ゆるのは罪惡でとまで考へました。それで忍んで敎えてゐました。是れが愛國だといつて勵ましました。

斯く我も頭をなやめ子も苦んでゐた時に、或る人に敎えられて、芝浦にアメリカン・スクールがあるといふことを知つてそこへ行つて見ました。校長のホーフサンマア氏に會ふて相談すると直ぐグランマースクールの七年に入れてくれるといふことでしたそれで私は喜んで其日から子供を托して歸りました子供も肩の荷を下したやうな心持になつて、躍り喜んで通學してゐます。Kさん貴姉は私共がコスモポリタンだと言はれますが、必ずしもさうではありません。無論日本人ですから日本の文化を愛するのです。子供も日本的の敎育を施したいのですが、試驗といふことゝ、學校に空間がないといふことゝで這入らしてくれないのです。米國で自由に入れてくれたのに、自分の國へ歸つて來たのに直ぐ受け入れてくれないのです。已むを得ず英語學校に入れたのです。ハイスクールが卒つたら米國なり英國なりの大學に送る考で居ります。唯日本の語と日本の歷史について時の許すかぎり面倒を見てやりたいと思ふてゐます。日本歷史なども英語で書いたものが澤山ありますから一人で硏究することが出來るやうです。日本に居れば日本語も自然に覺えるやうです。漢字は或る程度まで分ればよいと諦めてゐます。これから漸々さうなるのが自然ではないでせうか。

四

私共は今は國民と云ふことも大切であるが、其上に世界といふことを念頭に持つてゐます。「人」といふことを理想として敎育すれば日本人に成ることは自然に出來ると思ひます。

女性の使命

村岸榮子

「より高き靈的祝福に進まんとする者は、婦人の魂にならねばならない」　ニューマン

婦人とは、我々一般が人類と命名する所のもの丶緒言であるとも、又は大團圓であるとも言へ樣ぢやありませんか、彼女は自然性の極致を完成せしめ、どの他の生物にも勝つて神に近い聖意を表現します彼女の個性美と富變性とは、神の無限のお手細工のいづれの物よりも優れて居り、しかも彼女は愛の光輪を以て人類の頭に冠をおいて居るのです。よつて剛勇、剛毅、靈智、打算、計畫の一時代がありましたが、その中にもまだ事缺く何者かがあつた時に溫柔と調和と母性とが上より流れる樣に入り來つて玆に人類が完成されたのでした。そして神の全邊全幅の表現は、この人類兩性の中に發見されねばならぬのです。特に婦人は男子よりも心理上、道德上、生理上、遙かに精美に且つ微妙に弦の張られた調和よき階音を盛る器であります。彼女は往時の、血なき機械的な天使に勝る事、何倍でありませう。綠に包まる丶地の天使は、軈て天界にある天使とならねばなりません。でなければ、夫は我々の天にはなれないからです。神は男性的見地のみよりすれば決して人ではあり得ないのです。何故なら神は全體に亘つて婦人性を所有するからです。父なる神であり同時に母なる神であり、そして此の二つの神性が人間の中に美はしく融和さる丶所に、人としての神があり給ふのです。我々は全智全能の他に、更に愛と仁慈とを最も崇敬する神に求めねば止まぬ者です。我々が渇仰するのは、暖い翼の下に掻き抱かれもし度

い慈悲の神です。全能の神です。美の神です。そして人の母たると妻たると處女たるとを問はず、等しく彼等に滲透して居る靜謐な微妙な氣分の中に、神性の一部分が「久遠の女性」として輝いて居るではありませんか。一體神聖美といふ程に人を魅惑する物はありません。しかも婦人は創造主より與へられた神聖美を發揮するに何等の障害をも持たぬ者ですから、彼女は最も完全に人としての神の像を胸深く藏め、且つ是を反射して人を恍惚たらしめるものです。だから言はれて居ます、「美はしい婦人は、見る者をして高潔に狂はせる」と。それは彼女の中に神が人格の最も純潔な相貌を認めるからです。即ち神の姿は屢々我々の眼に近く人間のあらゆる能力や慈悲を通して描き出されて居るのです。

婦人は人類の愛です。その言說し難い、しかも力ある或るものが人をして神たらしめるに到るのです。愛とは雲の中に包まれた美であり温想であり光輝であります。また宇宙の情感であります。愛は單に彫刻された物にすら、生命を吹き込んで生命へ伸到させるものです。

スヰーデンボルグの天國では、妻は良人の智慧の愛であるとさせて居ます、即ち彼女は彼の温想であつて心情を以て導き、彼は彼女の光輝であつて頭腦を以て指導するのです。彼女が想情に燃えつゝ服從的で温和であるに、彼は畫策に耽り易く、打ち碎き難く、しかも不敵であるといふのです。かの男子が眞に男子たらんとするにはまづ婦人たらねばならぬとの言を敢てしたフランシス、ニユーマンは、貴重な最も穿つた根本思想をかたく握つて居ます。蓋し婦人性を缺如しては男子はその本質的男性を、換言すれば人間性を、茲に到つて即ち神に似たる性を、缺如するが故であります。時としては極めて詩的に歌はるゝ事ですが、婦人は決してあとからの思ひ附きではなかつた筈です。無限の智者なる神にとつて思ひ附き等とは絕對の不可能事です。全然「時觀」

を超越したる神は、同刹那に起源終局を共に見給ふのですから、人間が最初に神の製作室から引き出された時、彼はたしかに完全にしかも華麗に彫刻されて居るのです。然し夫でもまだ足らぬものがありました。生命です。血管を流るゝ血潮です。眼の中に燃ゆる炎です。顔に輝く愛の光です。神は是を認めて、彼の中に生命の息（婦人）を吹き込み給ひました、かくして彼は生ける（愛の）魂となつたので、彼女は彼の脈動となり包まれたる寶玉となつて、彼の鋭い眼先を和らげたのでした。婦人は男子のやさしみであり、男子は彼女のよりどころであつて、此の兩者が單一の光輝あるものに融和する處にのみ、我々は純潔な表現を發見するのであります。神は人間といふ生物を完結して是に愛すべき人間性を附加された後に、更に最後の最上の一指を觸れて、最も高潔なる人類種族を染めなし織りなして行く處の美妙なる女性味、即はち母性を賦與されたのでありました。

此の最後の權能を男子の上に柔かに注ぐといふ事が婦人の職分なのです。是ならば彼は智識に於て、或は巖石の如くに打ち砕かれ難くとも、これにました更に智識をして生かしめ、巖石をして薔薇の花の咲き出づる土壤にまで播り砕かしめるより偉大なる威力を缺如して居るのです。かつて男性が雲の中より電力を誘導してこれを人界に應用したと同じ樣に主なる神の女性を引き出す力は婦人にあるのです。彼女の持てるもの、彼女のあるもの、みな凡てが神の恩惠と慈愛であらねばなりません。それは餘りに機微で、餘りに深刻で、到底實現そのもの以外を以てしては說く事を得ぬものです。

婦人が宏大無邊の愛をまづ男性に齎し來らねばならぬ事は當然の順序ですが、彼女は更に進んで彼を通じて全宇宙へ、彼の哲學、彼の建築、彼の工業、彼の博愛を通じて宇宙へ、約言すれば神の愛と婦人の愛とが全地球を覆ひ包む迄に擴げねばならないの

です。神の女性をして、全宇宙か或は曙の太陽の如く希望に滿ち、低く垂るゝ空の如く謙讓に、薔薇の花の如く香り高く、山嶺と巖とが堺を除く、天地冥合の極に迄醇化せしめねばならぬのです。婦人はその至尊至高の資性を以て男性を教導し、更に男性を通じて全世界を醇化するために存在するのです。

婦人が愛する時、彼女は全身を本性そのものゝ小河に浸して最高の賜物を與へるのです。心爽かで温和な純潔な熱情に燃ゆる婦人が、信仰を抱いて愛する時、彼女は生ら乍らの本道に進んで居るのです。されば何者も彼女に抵抗なし得ないのです。けれども是に反して彼女が愛さない時、その時彼女は何等の武裝もなく無力で防禦の道なく立つて居るのです。彼女は愛する事に依て、彼女自身の眞價を確知するのです。男性、女性は共にそれぞゝ指摘されたる部分を受け持つて居て「一方が正義の耳に愛を説敎すれば一方は愛の耳に正義を説くのです」。愛が正義と伴なれば正當なる心の平順を、正義が愛と伴なれば美はしい色彩と權能とが得らるゝではありませんか。

全世界は如何ばかり婦人の中に表現せらるゝ靈感に滿ちた音樂的な本性を憧憬し、欽仰して居る事でせう。生活が一篇の小説と化し、社會が一個の機械と異ならぬ時、眞理の全殿堂が灰燼に歸して眞實が悉く力を失ふ時、その中に在つて動搖もせず猶も光輝を失はずに、行路をまつ直に保つ唯一の固著點は何ものなのでせう。それは婦人の心情です。婦人を措いて何人か、神と天とを發見したその發見をなし得る者があるでせうか。また、全世界が中心點にあつて必ず安定であり、且つ是等地の天使達が一天に集合すべき場所のある事を感知したその感覺を發見し得る者があるでせうか。茲に到つて男子は始めて、愛の神のみが婦人を生せしめたので、同時に婦人が樂園から來た者でなければならぬといふ事を、完全に認知せざるを得なくなるのです。故に彼は彼

女の胸にのみその愛したる頭を憩はせそして生きる勇氣と信ずる勇氣とを發見するのです。愛は俗世界の軋音や騷音が永久に消え去る所に、小さく囁くのです。婦人のほんとの心情を見出す事は、結局神の心そのものを見出して、永生を享くるに外ならないのです。かゝる高い情感は誕生したものではありません、そして然るが故に滅びる事がないのです。

さてまた玆に、文明の評價は婦人の感化の評價であるとも言へます。彼女は人道の缺點と底面とを共に記錄するものです。それで社會の水銀は、男子が彼等の母や、姉妹や、妻達に對して拂ふ尊敬の輕重に從つて昇降するのであります。まづあなた方は婦人を評價なさい、さうすればあなた方は國家そのものを評價したので、しかもその秤は決して過たないのです。即ち國家は彼女の弱さと共に弱く、彼女の强さと共に強いのです。同樣に、男子も亦婦人に對する評價の比準に依て秤らるゝではありませんか。

高い十字架の上より遙かの下を見下しつゝ、主の臨終の唇より洩れた千萬無量の偉大なる言は、「子よ、爾の母を見よ」でありました。

彼女の家族といふ關係はやがて純潔と囑望とを表示する物であります。彼女は種族とよぶ集合體の大家族の中心たるべき小社會の神聖なる中心であらねばならないのです。即ち彼女は家庭の救ひであるか、然らざる時は家庭の破壞者です、彼女は上衣の胸のひだの中に一家の運命を藏めて行くからです。彼女はみどり兒に乳房を哺ませつゝ、母親の理想と主義とを一滴一々と注ぎ込み、そして世に起つては彼女自身の生命を再生せしむべく送り出すのであります。それ故彼等は、母親の肉體の果實であり、母親の精神の炎であるのです。母親は彼女みづからの學園で彼等を敎導するのですから、もし彼等が期待に背いたとしたら、その責任は誰が負ふべきなのでせう。蓋し母にして、彼女自らの型を熟知しよき品性の洗禮を與へるなら、決して杞憂はないのでありま

す。そして彼女がこゝに絶對權を握るべきは當然なのです。政治家も、教育家も、宗教家も、實業家もみな彼女に依て保護されねばならないのです。何故なら彼女は彼等がまだ雪の襟に自由に塑造され易い頭に、大なる感化力を及ぼすからです、母さん達よ靜かに子女達の精神なり仕事なりに心を留めて御らんなさい、如何に無意識の中にあなたに傳へた事であらうとも、あなた自身の理想とあなたの與へたものとを、彼等は彼等の生活に生かして居るのです。「よし道德も宗教も滅びても、母はそのあるがまゝを以て小供等を新生せしめる」と言つたのはジョージ、エリオットです。

これでクラレンス、ラスベリー氏の婦人觀の大意は終つたのですが私は更に數行、ラスキンの「女王の花園」の中から書き拔いて結ばうと思ひます。

善良な婦人の步く處には、如何にも美はしい花が咲き出るのです。けれど此の花は彼女の足が踏んだあとに咲くのであつて、前に咲くのではないのです。テニソンの謳つた「彼女の足一度牧場を踏めば雛菊の花がそのために咲く」と此の事です。

「輕い鐘草でさへ
彼女の柔かな步みに觸るれば、撓やかにその頭を擡げる」

さうです。「婦人が花の上を步いても、少しも其の花を蹂躪らない」と言つた丈では如何にも物足りぬ心地がします。彼女は其花を復活させねばならないのです、彼女の行過ぎる處には、鐘草も頭を垂れずに立派な花を開かねばならないのです。

「同情ある娘は幸福なり、そは同情と愛とは彼女に歸るべければなり。」

「神を知らんと目ざす者は幸福なり、そは天の父は自らを彼女に現し得ればなり」

巣立せんとする姉妹へ

井川清子

この雨で隅々に殘つて居りました雪も跡なく消え失せ、木々の芽も次第に膨らみ春らしくなりました。貴女の御卒業の日もま近くなりました。此の靜かなる一夜。自分の淺き經驗から感じた事を少し書かせて頂かうと思ひます。先生と、御本とを賴りに思ふまゝ勉强せられた學校生活から廣い〳〵社會へ門出せられんとする貴女は、一方に高き理想、他方にはとめどもなき不安を持ていらつしやるでせう。御自分の行手が明に示され、又貴女の共に對する御決心も備つて居るのに、學校時代に得て來られた智識が何れだけ應用御出來になるか等と、不安は絕えずわけの分らぬやうに襲つて來るでせう。然し貴女の力のみを御考へなさらずに、神樣の御腕にすがり、祈禱の中に此の社會に御出でなさいませ。神樣は貴女の力を知り給ふて、其に相應しき仕事を御與へ下さいますから不安の來る時は常に御祈り下さい。祈で一日を迎へ祈で其の日を御送りなさつたなら貴女の一日の御生活又一生が如何ばかり淸められる事で御座いませう。貴女の出でらるゝ周圍が神を知らぬ爲今迄に知られぬ苦痛を味はれるやうな事も御座いませう。然し決してそれに支配せられずに、世と妥協せられずに、信仰に生きられて却つて其周圍を支配して下さい。其人達に貴女の言語動作を通じて神樣を知らせて下さい。私共の仕事だけが、ほんとの仕事でなく其以上に基督者の使命のある事を覺えていらして下さい。今世と妥協せられずにと申しました

がこれに就き一つ自分の苦き經驗から是非申し上げ度い事が御座います。それは世間見ずの頭には理屈ばかりから割出された考が多いのです。私達幼い者の考は理屈一方でそれがどれだけ眞情と相容れて居るかを見る餘裕が御座いません。理屈に驅られて情に薄くならぬやうに神の愛を忘れぬやうにして下さい。神の愛と神の正義とを同時に考へて下さい。そして卒業後も尙生徒の御心持で分らぬ事は決して誤魔化さずに何時も自分を僞らずに表して下さい。貴女の無智なるが爲に不快を感ずるより、人は誤魔化されたと知た時の方が、もつと〳〵不愉快に覺えるでせう。自らが神の子たると同時に人をも神の子にしてあげるやうに、ひそかに祈られて居る事を思はれて、力を得られ、キリストの兵士となつて雄々しく出陣せられん事を只管に望みます。

イエス傳概略（其四）

苦難のイエス

武本喜代藏

△馬太傳十六章廿一より廿八章の終迄がイエスのパッション則苦難に付ての記事です。カイザリヤ、ピリピで、初めて弟子に苦難の近きことを示し給ふたのです。以下十字架と榮光とか互ひに入交つてゐま

す、十七章に記してある山上の變貌はやがて來らんとする苦難に對し、輝ける復活の豫表として示されたものでせう、以下イエスの敎訓はいよ／＼深刻熱烈を加へてゐます、死が次第に近いたからでせう。

(一)メッシャ的入京、イエスはガリラヤで說敎し多の人々を悔改せしめ、又は醫し、紀元卅年の初頃逾越節の時、意を決して上京し給ひました、自らメッシャたるを意識し、死を決して之を公然發表し給ふたのです。

勿論主は死を避けて他國へ、行くことも、潛伏する事も出來たのです、然し彼は己の死を以て世の贖と信じ、死がやがて多くの善き果を結ぶ所以であると信じ給ふたのです、彼の死は單なる殉道の死ではありませんでした、彼は代贖の羔として血を濺ぎ給ふのです、即ち人の爲に、萬人に代つて、人類の代表者として、全人類の罪を己れに引受けて其當然の罪の結果を身に盡く受け給ふたのです。

(二)パッション、ウィーク、入京と共に苦難週が初りました、之れからの一週間が主一代の最後の奮鬪でした、之れを每日に割當てゝ分類して見ると左の如くです。

(一)日曜日　神殿を潔む、
(二)火曜日　學者と辨論す、
(三)水曜日　ベタニャに退く、
(四)木曜日　最後の晩餐、
(五)金曜日　則グット、フライデー、ゲッセマネの祈、審問、十字架、葬らる。
(六)土曜日　安息日の休み、陰府に降る、

(三)最後の晩餐、主は弟子と共にユダヤの習慣に從ひ、エルサレムで此逾越節を守り給ひました、之れは昔埃及の奴隷の家からイスラエル人がモーセに率かれて出た紀念祭で、一同羔を宰り、ニガ菜を合ひ、當時の苦難を追想するのでした、此逾越節は今の日の夜晩餐式にと變つたのです。

此時ユダは退席し、殘る十一人は爰に接近して、親しくパンを食ひ、葡萄を啜りました、イエスは此

時いとも嚴かにパンを取りて祝し之をさき一人〳〵に與へて「取りて食へこれは我身なり」と謂ひ、更に杯を取りて謝し、彼等に與へて「爾曹みな此杯より飲め、これ新約の我血にして罪を赦さんとて衆の人の爲めに流す所のもの也」と謂ひ給ふたのです。

「之れは我身なり」とか「衆の人の爲めに流す」とか云ふ主の眞意は何所にあるでせう、單なる佐倉宗五郎的の死が、どうして萬民の罪を赦すと云ふやうな事に成るでせう、之れは謂ふ迄もなく贖罪の死でした。人類の爲めに流し給ふた神の子の寶血でした、罪はキット刑罰を伴ひます、刑罰のない罪は斷じてありません、人類が犯した罪の刑罰は人類自ら之を受けて全滅するか、然らずんば立法者たる神御自身が代つて之を受け給ふか、でなければ、どうしても始末が付きません、何時迄も未解決のまゝ又續いて行きます。

贖罪に關する主の御言は餘り多くありませんでした、馬太傳二十一章の「此の如く人の子の來るも人を役ふ爲には非ず反て人に役はれ、又おほくの人に代りて生命を與へ、その贖とならん爲なり」と、晩餐席上の最後の御言が其重なるものです、が然し死に際して、暗黑が刻々に主の一身を蔽ふて來て、ユダの如きものが現はれ、學者祭司は狂暴憎惡を極め前途暗憺、世は惡魔の王國、神の國は全く望みなきものゝ如く見えた時、主の一語眞に萬鈞の重みがあります。

私共は此時の主の言に非常に重きを置きます。而して人類の罪の贖が確かに主の死に依つて成就された事を疑ひません、が併し信じない人々にはそは何等の功能もないのです。生命の水の河が開かれても飲まない人に何の益があるでせう、天下の靈藥も疑ふ人には井塵埃同樣です、キリストの贖も信じてこそ救はれるのです、之を疑ひ、馬鹿にし、冷眼視するやうな人々には向ふ救ひの力はないのです。

(四)審問　かくて主は弟子と共に詩篇を謳ひつゝゲッセマネに入り、血の汗を流して祈り、ユダの先

導で來た祭司長の下役の手に囚はれ給ひました、祭司長は明後日が土曜日で安息日ですから急いで夜半にも係らず、七十八會議を開き審判し、遂に神を瀆すものとして其面に唾し、拳で打ちなどしてイエスをロマ總督ピラトの法庭へと移しました。ピラトは不法と知りつゝ彼を死罪に定め、遂に十字架の極刑に處する事としたのですが、主は沈々默々、何らの答へもし給はず、只一言二言、自分が人類の王たること、又再び雲に乘りて來ることを斷言し給ふたのみでした。

（五）十字架　明け方からゴルゴタの地へ引きゆき、朝の九時頃にはもう已に十字架に附けられ給ふたのです、十二時から三時迄主は非常に苦しみ給ひました、此嚴かな三時間に主は只七回丈け簡單な言を發し給ふたのです。

（一）今日汝は我と共にパラダイスに在るべし、

（二）父よ彼等を赦し玉へ、其爲す所を知らざるが故也。

（三）婦よ之れ汝の子也、

（四）此なんぢの母也、

（五）我神〳〵何ぞ我を棄て給ふや、

（六）我渇く、

（七）事竟りぬ、

（六）贖罪の信仰　イエスの死が贖罪の死であったと云ふことは深くも弟子達の心を貫き、今日迄世界の基督教會は何れも皆之を信じてゐます、十字架が神の愛のシンボルと化つたのも全くそれが爲めです

「罪を知らざるもの我等の爲めに罪人となれり」

「彼は我等の罪の爲めに己を與へたり」

「彼一度罪の爲めに苦み、義者、不義者の爲めに死せり之れ我等を神に到らしめん爲也」

「イエスキリストの血凡て我等を罪よりきよむ」

「彼は我等の罪のナダメの供物なり」

イエスの苦難は我等の爲でした、アヽ彼は我等の爲に血を流したのです彼に何の咎があつたでせう、聖の聖なるものが、罪人の首とされたのです、我等は彼に由つてのみ救はれます、只彼のみ私共を罪と死と惡魔から永久に救出す事です。

斷片

岡崎小文

卒業の姉妹へ

遠なる波の音に胸とゞろかせ
希望に燃ゆる人々よ
廣い世界に、活動の世に
君等が門出は待たれてあり
機會が人を何處へ運ぶやら
いづ地行くとも全き己を
捧げ得る其處ぞ
祝福の天地、伸展の世界
其地君等のものなれや

羽ばたきする若鳥が
半の己を捧げて苦しまぬやう
幸あれ、若鳥に幸あれ

○

私は何も持たない
うつろの自分のやうだ
しかし時に歌ひ度くなる
魂が燃えて來る
かぎりない嬉しさが輝いて來る
此輝のある中に筆をと思ふ
用事が起る情が冷える
平凡な自分が殘る。

○

うたれても
たゝかれても
責めさいなまれても
其手を呪ひ得ぬ
憎み得ぬ此心

涙の中に其手に幸あれと
いたみの中に其手に安きあれと
悲みの中に
其手の生命祈らるゝ
此心いづこより來し。

○

悲しい涙
口惜しい涙
苦しい涙
美くしいものを見た時の涙
優しい言葉に接した涙
嬉しい餘りに溢るゝ涙
故知らぬ涙
私のこぼした涙の量
質によつて分けて見れば
悲しい時が第一で優しい言葉が第二で
故知らぬ涙が第三だ

悲しい涙は慰めを
口惜しい涙は酬くさを
苦しい涙は鍛練を
美、優、喜の涙は力と愛を
私の宮殿にそゝぎかけ
破壞と建設が繰返へされる
そして故知らぬ涙が
積つた塵を洗ふてくれる。

○

人をめでいよ／＼神を慕ひ行く
此心まこと生命のびまし

○

問ふな
言ふな
極めるな
我燃えてあり貴き生命に

枯草の上で

二階堂眞壽

「長閑な日ね」

「ぽかぽかしてほんとうに春らしくなつたわ」

「そら蒲公英が首を縮めて咲いてゐるわ」

「いくども霜柱が立つては解け、解けては立つて土がそくそくしてゐるのね。まだ誰も校庭などへ出て來た人はないんだわ。わたしどもの足跡がこの春になつてから屹度始めてなのよ

「そら足跡があつてよ犬の足跡が……」

「あたり前だわ、犬なら……」

「この邊がいゝわ。日あたりもいゝし、それに枯草が茂つてゐるから。腰を卸したつて大丈夫よ。泥なんか附かないわ」

B子、C子、H子、M子、U子は校庭の隅の老櫻の根元の枯草の上に思ひ思ひに腰を下した。葡萄茶の袴をしどけなく敷いて、ほそほそと薄雲を洩れて射してくる春日を浴びながら申し合せたやうに、みんなは春霞の立ち罩めてゐる景色を眺めた。

「あの煙突から立ち昇る煙は全く暢氣さうね」

「もう恁うやつてみんなと話し合ふのもう暫くね。もうすぐ散り散りになるんだわ。そしてもう二度と逢はない人もあるんだわね」

とメランコリックなM子は稍々感傷的に言つた。

「また始つたわ、Mさんの感傷が……わたしなんか嬉しいわ。もう今日きりです裁縫の時間が濟むんだから……のびのびするのよ。」

とビューテフルなB子が茶々を入れた。

「わたしお裁縫の時間がなくなるのは悲しいわ。でもミス、ペーッのカンバアセイションが明日きりで

終はると思ふとほんとに救はれるのよ」
カユリイなC子があどけなく恁う言つた。そしてみんなは「救はれるのよ」といふC子の言葉にどつと笑つた。
「ほんとうに早いものね。つい此の間のやうだつたわ、教室でお互に顔を見識つたのは……あの頃はみんな偉く見えたわ……自分のお友達になりさうな人はゐないかと物色してみたのよ。C子さん、貴女はすぐ私の傍にいらしたのね。なんて可愛らしいお方だと思つたのよ」
といつでもハツピイなH子は言つた。
「卒業つて嫌やなものね。わたしいつまでも學校にゐる方がいゝわ。出の中へ出たら屹度拙らないんだわ。歌を歌つたりピアノを彈いたりしてゐられた寄宿舎の方が懐しいわ」
とクラスメート中一番アグリイなU子は淋げに言つた
「寄宿舎がそんなに懐しいの？」
B子は輕侮したやうな表情を浮べて言つた。
「あんなに××舎監にいぢめられた舎なんかちつとも懐しくないわ。さつさと出たいと思つたわ」
「あゝさうさう。××舎監排斥の相談をしたのは恰度この櫻の下だつたわね。」
「わたし生れてからあんなに意地の惡いオールドミスに逢つたことがないわ。自分のすることはなんでもよくて、他人の爲たことはなんでもいけないのよさうして名譽心が强くて、少しでも譽められるとすぐ調子に乘るのよ。」
「そして依怙贔負が强くて、好きな人のしたことはなんでもかばひ、嫌いな人のしたことはどんなによいことでも認めないのよ。そして貶すのよ。あんなに片意地な人に逢つたことがないわ」
「ちつとも生徒の自由などを認めないで、今の學生は放縱だと叱りながら、自分では人一倍氣儘なんだつたわね。そうしてほしくないといふ人に無理强い物をくれたり、喰ひたくないものを無理に喰はせたりして、それを貰はなかつたり、喰はなかつたりす

ると機嫌がわるいのね。」

「少しでも門限に遅れると『わたしがどんなに心配してゐたか知つてゐますか』とあの怖しい見脈！思つても身顫ひがするわ。」

「生徒にばかり辛くあつたのではなかつたのだつたつてね。他の先生達も手古摺つたのださうですよ。なにか忠告でもしようものならぶる〳〵とヒステリックになつて怒り出すので誰も敬遠主義をとつたのださうです。」

「わたしどもが排斥したのは痛快だつたのね。」

「しかし私は何んだか氣毒でもあつたわ」

「どうして？」

「だつて自分では自分の惡いことを知らないのだから……性格から來てゐるのよ。業が深いんだわ。」

「反省が足らないからいけないんだわ……『どうしてあんな無理な命令に從はなければならないのか』とみんなこの櫻の下に集つて憤慨したんだわ。あの時みんな昂奮してゐたわ。もうこれ以上はどうしても忍べないと貴女だつて言つたぢやないの……。」

「こつちで忍べば忍ぶほど、ますますつけ上るんですものね。ヒステリイてあんなものかしら……」

「ところがいよ〳〵私共の勝利になつてあの××先生が轉任するとなつたときなんだか張り合ひがなくなつたやうな氣がしたわ。」

「わたしもよ。なんとなく氣拔けがしたやうに感じたわ。あの送別會の時ね。わたし泣けて仕方がなかつたのよ。それみろと悦んでゐる人もあつたけれどわたしには何といふことなしに涙が流れて仕方がなかつたのよ。嬉しいといつて手を拍いて悦ぶよりも、しく〳〵泣き出したい氣がしてゐたわ。」

「ほんとうに虐められるとそれだけ眞劍に生きてゐるからよ」

「ほんとうに虐められ苦しめられた人と別れるときは、ほんとうに愛してくれた人と別れるときと同じやうに感情が昂ぶるものだわね。その時つくづくさう思つたわ。さうしてもつとあんなに片意地な人に

眞心から仕へられるだけ仕へ拔いてみたいやうな氣がしたわ」と一番内面的に深みを持つてゐるM子は言つた。

「まあ厭やなこつたわ！」とB子は眉をひそめて言つた。

「それぢや貴女は××舍監のやうなお姑さんの居るお家へお嫁にゆくといゝわ」と一番茶目なH子が茶目つた。するとみんなまたどつと笑つた。

「夫さへ愛してくれたら、お姑さんなんかいくら辛くあたつたつてなんでもないでせうにね」C子はにこにこしながら言つた。

「もう來年あたり同窓會で逢ふときは屹度もう赤ちやんのある人があつてよ」

「まさか……」

「だつてB子さんなんかはね。御良人がB子さんの卒業を一日千秋の思ひで待つて被居るのよ」

「まあ人のお惡いこと。何も廣告して貰はなくともいゝんだわ」B子は溢れるやうな得意さを浮べながら言つた。

「御良人は去年大學を出て外交官の試驗にパスして今は領事官補なのよ。だからB子さんは英語の會話に御熱心なのよ。それから佛蘭西語もお始めになるんですつて……」

「まあ、人のことばかり仰言るもんぢやないわ。貴女だつてちやんとおきまりになつてゐるくせに……。」

「あら噓だわ。そんなことは噓よ。」

「卒業する前によく何んなところにお嫁にゆくかつて占ひをするクラスがあるんだつてね」

「ひとつやつてみませうか」

「B子さんはもう外交官と決つてゐるし、C子さんはどこがいゝでせう。教育家？

「それがいゝわ、それからM子さんは？」

「M子さんは思想家だから詩人がいゝわ」

「さうだわ、さうだわ。さういふH子さんは……政治家？」

「政治家よりも實業家がいゝわ。いつでもハツピイ

なんだからね」

「それからU子さんは？」

みんなはU子の醜いことを知つてゐたので口をつぐんでしまつた。或者は「商人がいゝわ」と思つてゐるものもあつたが口に出さなかつた。すると口の惡いB子は「牧師さんがいゝわ」と言つた。するとみんなはくすくすと笑つた。

「わたしは職業婦人よ。」とU子は言つた。さうして彼女は人知れず自分の目にたまつた涙を拭ふのであつた。みんな他の人だちはそんなことをいふ資格を持つてゐる。私だけは、どうしてこんな不具のやうな人間に生れて來たのであらうか。女は嫁がねばならないのだらうか。私はやつぱりひとりだちをせねばならない身に生れて來たのだと我と我身をたしなめるやうに心に言つてみると、止めどもなく涙ぐましくなつてくるのであつた。

M子はU子を同情しながら「しかし誰がほんとうに幸福になるんだか判らないわ」と言つた。

M子のこの一言は力強く響いた。さうして或ものは、はつと心に反省させられたほどであつた。

B子さんのやうに美しい容貌と惠まれた幸運とをもつてなんの憂いも苦しみもなく、この快樂を獨專して揚々として得意になつてゐる彼女が果して幸福なのだらうか。醜く生れたばかりに人並に幸福も味はずに、この世を苦しみと惱みとの中に、幸運の女神の一顧も受ずに過さなければならぬ。U子さんは果して不幸なのだらうか。M子は福音書の中の「富める人と貧しきラザロ」の物語を思ひ出した。

「幸福だと思つてゐる人は案外不幸者なのかも知れないわ。不幸だと思つてゐる人はその實、幸福の種を蒔いてゐるのかも知れないわ」とM子は低いしかし落着いた聲で言つた。さうしてA子の顏をみると彼女は不機嫌相な表情を浮べてゐた。

その時、始業のベルがカラン／＼と鳴つた。みんなはやをら枯草の上から起き上つた。さうして袴に附いた枯草を手ではらつて教室の方へ急いで往つた。——

法律講話

婦人と法律

岡崎應介

——自由の進化——社會政策時代——婦人解放運動の主張と其法律的批判——自由結婚、妻としての自由——結論

第一 婦人と自由

ルーソーの民約説とモンテスキューの三權分立論とは、漸く民主々義の發生を促し、カントの自由意識説とフイジオクラシイの自然法説とは、他方に於て自由思想の萠芽を培ひ、貴族の專横と官僚の暴虐とに苦みし新人は、メーフラワー號に自由の新天地米國の獨立を誓つた。其熱叫は軈て佛國革命となり之より自由民權の思想は漸く深く根ざし、十九世期以來今日に至るまで、政治上に於て經濟上に於て將又法制上に於て、私達は眼ま苦しい程の改變を甞めつゝあるのであります。かくて國王の專權漸く衰へ個人の權力次第に擴張し、大國も小國も、立憲國ならざるはなきに至つた。而して私達は、營業の自由契約の自由、言論出版、交通の自由、財產所有權上の制限廢止、奴隷の解放、權利の平等を得又得んとしつゝあるのであります。如斯各方面に渉る各人の自由は、茲に愈々猛烈なる生存競爭を出現し、其の結果强食弱肉の戰慄すべき社會狀勢となり、假令法律上平等でも、實際上甚不平等の結果を生み、聖書にもある通り「持てる者は益々與へられ、貧しき者は其持てるものまでをも失ふ」如になり、人類の不幸は却つて深刻ならんとするに及びました。茲に於てか、此弊害を救ひ、以て理想社會を造らんが爲に憤起したのが所謂社會主義なのであります。然らば社會主義の主張にも、其詳細は暫く措き、一面捨て難い點も少くないのである。其否を去り可を採つたのが即ち社會改良主義で、自由的社會改良主義、保守的社會改良主義及び基督教社會改良主義の三派

が之であります。此各主義の內容は、御希望があれば稿を改めることにし此所では省略します。而して此の改良主義が一般に認容せられ、如何にかして各人は最平等に生存し、以て最大多數の最大幸福を計らんとするに至り、之が爲には各人の自由にも幾分の制限を加ふる必要を認め、玆に現今の社會政策時代を出現するに至つたのであります。而して此社會情勢は直に法制上に反映し、我國に於ても、單に公の秩序善良の風俗に反せざる行爲(註)なるが故のみを以て滿足せず、利息制限法、借地借家法、鑛業法工場法、其他の法令により、契約の自由行爲の自由を制限し、進んで社會保險法、勞働組合法等によつて益々其自由に制限を加へんとし、且又治安警察法其他二三法規の改正を試み、一方强者の自由を制限し、他面弱者の地位を向上せしめ、以て最大多數の最大幸福を能ふ限り增進せんとしつゝある。之を是法律の社會化と云ふのであります。

かくて今や無產者階級の叫びは漸く實現せられつゝあるのだが、同じく社會的弱者たる婦人――かく申せば嗤はれるかも知らぬが――の聲は、未だ動すれば里耳に入り難いのであります。是婦人の自覺尙不足の爲か、其運動方法の拙なるが爲か將又男子の頑迷か、それとも社會敎育の罪なのでせうか？　兎に角從來の我國社會は、各方面に渡つて婦人の權利を蔑視して居た。其玆に至つたのは我國に於ては歐洲の文化史と稍異り、個人の解放未だ全からざるに直に、現代の社會政策時代に棹すに至つたが爲に外ならぬ。如斯文化の大飛躍は、寸毫も之を呪ふ必要はないが、一面に於て一大社會缺陷をも伴ひ、到る處時代錯誤の現象に逢着するのである。然らば私達は、一面益々現代社會政策の職能を發揮すると共に他面大いに個人自由訓練を積む必要があるでせう。此時に當り二三婦人先覺者は「私達は人間活動の全部を文化生活の內容として……自由に適した活動を自己の生活體系に悉く攝取しよう」と喝破せられ、「人の親たるは固より、戀愛の協同者となり、友とな

(註)民法九十條公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行爲ハ無效トス

り、市民となり、教育者、藝術家、學者、筋肉勞働者、技師、官公吏、醫師、海員等の何れにもなりたいと思ひます……女性として母となることの外、性別を顧慮する必要がありません。餘計な顧慮を强いられて、男子の家庭に從屬者たる境遇に久しく跼蹐して居たればこそ、女子は男子と同じ人間でありながら、現に見る如き畸形な狀態に停滯して仕舞つた」と痛慣せられ、之に對し小島茂雄氏は殆ど無條件で同意すると述べられて居る。（本誌二月號）而して私達青年理想家は、此哽嘆咒愕の論に對し、滿腔の同情と熱誠の聲援とは固より惜まないのでありますが、論旨の詳細については尙熟考の餘地があります。先づ法律的に此雄叫を批判するならば、現行法上に於ても、列記せられし筋肉勞働者たり、醫師たることも總て婦人の自由であります。唯右の内官公吏となること、市民として市政國政に參加する權利即ち公民權のみは婦人に與へられて居ない。是前月も述べた所だが、憲法第十九條は日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應ジ均ク文武官ニ任セラレ及其他ノ公務ニ就クコトヲ得ル旨を保障する以上、婦人も亦官公吏となる權を有するに拘はらず、文官任用令其他の法律命令は何れも男子たることを其要件として居るのである。本權並に選擧權（參政權）は法律上自由權とは云ひ得ないけれども、法理上之を拒絶する理由はないものと考へます。若夫れ戀愛の協同者となり、友となりと云ふ點については、何の意味だか私には判らないが、假りに戀愛に基く自由結婚と云ふ意味に解して差支ないならば、婚姻につき華族又は軍人は、宮内大臣又は本屬上官の認可を必要としますけれども、平民たる私達は自由結婚をなし得るのであります。唯婦人が二十五才未滿か男子が三十才未滿のときは父母の同意を得るを要し（民七七二）滿十五才未滿の女及十七才未滿の男は法律上結婚することが能きません。（民七六五）姦通に因り離婚又は刑の宣告を受けたる者は相姦者と婚姻するを得ず、（民七六八）重婚は勿論許されません、（刑一八四）自由結婚年齡上の制限

は改正の必要があるでせうが、其他の制限は論者と雖別に異議はありますまい。しかも法律上重婚、相姦者の婚姻を禁ずるのみで、事實に於て男子の二重婚に遭遇するのは屢々であります。刑法上（同法一八四條）＊重婚者は二年以下の懲役に處せらるゝ規定あるも、而して私は此規定を以て蓄妾禁止と解すべきだと思ひますが、未曾て實際妾を持つた男又は妾の罰せられた話を聞かない。況んや相姦者の事實上の共同生活については、何等の刑罰もなく、之等不道德漢の罰は、潔白無垢の其子供に酬ひられ、私生子又は（註）庶子とせらるゝに過ぎません。是立法者は親子の愛情に基き、かゝる不道德を間接に抑壓せんとしたのですが、事實は反對の結果を示して居ます。加之自由婚姻年齡未滿者の獨斷事實婚姻は、倫理上別に咎むべきではないけれども、法律上は其婚姻は不成立なるが故に、出產ある場合には其子も亦同樣に私生兒又は庶子の待遇を受けねばならぬ。唯後に婚姻當事者が父母の同意を得るか又は自由婚姻年齡に達した上法律上の手續を踏み之を認知することにより嫡子とすることが出來ます。（註）法律が如斯自由婚姻の年齡に制限を加へたのは、未成年者の婚姻を認めて居るので、思慮の不足を慮つた點もあるでせうが、寧家族制度の原則上父母の同意を必要としたので、從來の國風上已を得なかつたことゝ存じます。然るに一定年齡後は、獨立の生計を營む能力を生じ、思慮又深く、加ふるに父母の同意を得ざる爲に徒らに婚期を逸せしむるを慮つた爲自由ならしめたと存ぜられるのであります。近來自由結婚說が頗る旺盛を極めて居ますが、自由戀愛婚の反面には自由離婚を含みます。然るに基督敎に於ては離婚を甚しく禁忌し從つて西歐各國に我國の如く離婚の自由を認めた國はありません。而して上述の如く事實婚と法律婚との間に庭逕の存する我現行法制並に社會制度は固より改革の必要甚急なるものあるを覺えますけれども、騎虎の勢に驅られて、未だ獨立の生活能力すらなくて、自由結婚の要求も凄しいと存じます。

＊刑法一八四條配偶者アル者重ネテ婚姻ヲナシタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同ジ

（註）法律上婚姻ノ手續ヲ經ズシテ生レタル子ハ母ガ認知スレバ私生兒トシテ存シ父ガ認知スレバ庶子トテフ

（註）詳細ハ民法八二六條戸籍法八一條及八三條ヲ參照セラレヨ

し乍ら此點に於て自信さへあるならば、現法制の下に於ても一時、不便を忍ぶならば、相當に自由婚姻は之を行ひ得るのであります。若夫れ絕對自由戀愛婚を要求するに於ては、三角關係の戀愛も成立すべく、且又既婚後更に第三者たる配偶者以外の者に對しても新なる戀愛の生じないとも限らない、此等の場合尙戀愛の協同者となり、友となるに於ては、現在の一夫一婦制を以て私達の理想的男女の協同生活狀態となす以上、法律は之を如何に遇すべきか、一寸問題が面倒になりますから稿を改めることに致しませう。

私は如斯極端ならざる程度に於て(現在は)自由結婚を讃美したいと思ひますが、現在の父母の同意制は事實上、恰も政府と議會とは對等なるべきに拘らず議會は政府の傀儡となり勝の如く、主たるべき婚姻當事者の意思は却つて從となり、從たるべき筈の父母の意思が專橫を極むるに至り、形式的の見合の下に、甚しきは生れて間もなく其子の運命を親が決定し、爲に後日家庭の圓滿を缺き、濱田榮子事件の如き悲慘事を生ずることも少くありません。如斯は法制の罪と云はんよりも、寧父母たる人の權利の濫用であつて、法律は一面に於て之を保護し、當事者間に婚姻を爲す意思なきときは之を無效とす、(民七七八)ると同時に、他面父母の同意を得ず、又は欺いたり强迫して同意を得たる婚姻は、一定期間內に於て同意權者たる父母より其取消を裁判所に請求することを得しむる(民七八三)のであります。以て衡平を期するのですが、事實上前者の保護は不完全たるを免れません。

此外法律は生理上婦人に對し夫の死後再婚を欲するときは、解消後六ケ月を經るを要し、若解消前懷胎でもして居たら分娩の日より同樣の期間經過を要します。親子叔姪間の婚姻、養子と養親との婚姻を禁じて居ますが、之等は倫理上當然のことである

之を要するに單に法文上よりのみ考ふるときは、固より幾分改正の必要はありませうが、婚姻の自由は

それ程制限せられて居ないことがお分りになつたでせう。

若夫れ婦人が母たる以外性別を顧慮する必要なく男子の家庭に從屬者たる勿れと云ふに至つては、法律上家族の一員としては、相續權に優劣あるの外男女間に大差ないのであります。然るに妻としては夫權に從はねばならぬ。是家庭の平安上、一家の統一上、實際に當つて必要のことゝ存じます。然るに若も之をしも否認し母たる以外絶對に同權を叫ばるゝのであるならば、遺憾ながら私は讃成を躊躇せざるを得ないのであります。固より夫婦の共同生活に於ては、共同的に事を處することは理想であり、必要であります。併乍ら不幸夫婦の意見一致を缺ぎ、尚且つ對外關係の必要上、何等かの意思表示をなさゞる可らざる場合には、夫の意思を尊重すべきか將又妻の意思に敬意を表すべきかの問題を生ずるのであります。一國内に同時に同一の效力を有する權力が二以上あるときは、其國は結局分裂の外ないのであります。仍で法律は妻の自由に幾分制限を加へて次の行爲について獨斷でなすを許さず之に反した場合には、無效ではないが夫は之を取消すことが出來るとしました。一、貸金などの元本を領收し又は之を利用すること。二、借財又は保證を爲すこと。三、不動産又は重要なる動産に關する賣買や贈與等の權利の得喪を目的とする行爲、但し特別なる夫婦財産契約により妻の自由處分をすることが能きます。四、訴訟行爲をなすこと、勿論夫を相手取る場合は別であります。五、贈與和解又は仲裁契約をなすこと。六、相續を承認し又は之を拋棄すること。七、贈與若くは遺贈を受諾し又は之を拒絶すること。八、身體に羈絆を受くべき契約をなすこと、此の外の行爲(例へば學者なり藝術家となるは無論のこと、建物や動産の貸付餘り重要でない物品の賣買等の如き)は一切妻の自由であります。營業については、夫の許可を必要としますが、一旦許された以上其營業に關してなら、獨立人と變る所なく以上の制限行爲についても尚單獨に行爲す

ることが出來ます。

但し夫は一旦與へた營業許可を取消し又は制限するを得ますが、之が爲にかゝる取消など知らない他人に對しては妻の行爲は依然として有效である。法律は夫の生死不分明其他一定の場合に於て、夫の許可を得能はぬときは勿論妻の獨斷を有效とするのであります。(民法一七) 尙小さなゴタ〲がありますが、唯日常の家事については妻は夫の代理人と看做され、(民八〇四) 一々夫の許可を要しないのであります。併し此代理權にも制限を加へられることもありますが、之を要するに妻としての婦人の自由は、法律上から見ても餘り自由でない。基督徒者として、社會理想家として、現行法制に慊らない點は萬々あります。併しながら私は「性以外男も女も人間として平等でありたい。」との前提の下に直に夫婦の絕對平等までをも主張さるゝについては聊か時期尙早と存じます。尙現行法は、母が親權行使の場合に親族會の同意を必要とする場合もあります。(民八八六) 故に親としての母の權利にも幾分の制限が加へられるのであります。

以上私法上の婦人の自由について大略を說述しましたが、公法上治警法等により不當の束縛を受けて居ることは前月述べた通りである。惟ふに自由の要求は、法律上の問題に非ずして政治上の問題である。法律上は要するに第三者の干涉排除に外ならぬ。公法上に於ては國權の違法なる侵害をも禁壓する力であり、私法上に他人の違法なる干涉を斥くる力である。故に自由と雖適法の干涉は之を斥くるを得ないけれども、現行法上の適法の干涉自體が通常の干涉なるや否やが問題となるので、茲に現行法の改正運動を起す必要が存するので、而して其の運動は軈て政治化されるのであります。政治上の意味に於ける自由とは、畢竟各人の自由を意味するのであり、獨り違法干涉の排除と云ふのみに止まらない。國王の官吏に依つて支配せらるゝことなく、人民自ら自己の利害關係ある公務の處理、私務の辯理を要求する

に歸着する。國民中治者階級と被治者階級との區別存し、被治者は唯治者の命に是從ふを以て滿足したのは既に過去の歴史である。民衆の利益は民衆自から之を主張し、之を管理せんとする要求は、國政上國會制度の發達となり、地方に於ては府縣市町村の自治制となつて現はれたのである。其の結果が君主專制官僚政治に於けるよりも果して幸福たりや否やは從たる問題にすぎぬ。然るに我國に於ては形式上の立憲政治あれども、未だ實質上の民衆政治は存在して居ない。依然として官僚政行はれ、封建政治の因習に囚はれて居るのである。是が爲めに言論の自由は存するも言論の力は頗る微弱である。是我國々會の無力たる所以であります。而して是婦人運動の勢力未だ社會を動かす能はざる所以であります。然らば自由は言論の問題に非ずして實行の問題でせうか？「あの林檎を射て見よ」と命ぜられ、百方詫びても聽入れぬ代官の傲慢頑迷に、憤然として弓を執り愛兒の頭上の林檎を覘つたとき、自由の樂園端西の建設は決心せられし、千古不滅の大戯曲「ウキルヘルムテル」は、熱血詩人シルレルの手に成つた。かくてハプスブルグ家の暴政は止み、ブールボン王朝の榮華の夢は、一介の貧書生ジャンジャックルソーの民約論に破られたのである。『自由を與へよ、否ずんば死を與へよ』との悲痛壯烈なヘンリーの熱叫は、遂に自由の天地米國を産むに至つたではありませんか。然らば言論の力亦偉大と云はざるを得ないでせう。併しながら私達の望む所は、佛國式の革命でなく、獨乙式の社會改造でもない、實に英國の名譽革命式の溫健なる社會改造である。此の意味に於て私は、婦人の自由の要求は、已に言論の時代を去つて實行の時代に在ると申述べたいのであります。

米國からのお土産話

小崎道子

私はあなた方とは違ひ老人で米國に行くと云へばあまりに突飛な樣ですが、私には娘もあり、孫を仕込まなければならない故老人とは云へ現代の教育をやらなければならない。

米國に行くのは何んでもない事だが日本の生活とは違ひ、衣服、言語、食物等萬事、萬端ほんとの米國生活を覺悟して行かなければならぬ。七年も、十年も米國に行つて歸つて來た人達にお土産話をと云つてもその生活になれてゐる人はめづらしくないが、私は五ケ月間だけ故長い間行つて居た方とは違ひ見ただけの事を此處にお話致すつもりである。今日は十時に矯風會で委員會があつたり、又納棺式があつたりこれからも何にやかやと忙がしい。老人が歸つて來たので珍らしいから方々から色々と賴まれるのを遠慮なく出かけるので、一月三十日に歸朝後一日としてゆつくりとした心持になれない。昨年八月避暑地から呼び戻されてそのまゝ行つたので、まだ簞笥の中には夏物が入つて居る。若い夫人が米國に行くのは專門の學問の爲でもあるが、私如き老人は總てを見聞するのが役目である。往復の船路を除いて全四ケ月間の經路は三四年も學校に行つてゐる方よりも多い樣に思はれる、兎に角目にうつゝた米國は種々の方面で日本に直ちに移すことの出來ない事もあつたが、私の主義でよい事だけを申し上げやう。私が昨年九月九日に出帆する以前に、旅行の決心をしたのが九月三日の午後で、船仕度から總て

を一週間にするので大變に忙がしかつた。第一に、日本の敎會を代表して、十年に一度の宣敎會議（世界中の牧師のみでなくて日本の傳道の將來を考へてゐられる方々のお集り）第二は組合敎會のボストン會議、第三はワシントン會議の間接な働きの爲である。十八年前、卽ち明治三十八年に私は加州に居る同胞の爲に傳道をした。又ハワイにも行つた。日本人の傳道視察の爲めの加州で困つたのは衣服であつた。バンクーバーに着いた時に同胞の言で洋服に變更する必要を認めたが、其時の洋服は間に合はせものであつて、單に便宜上出來合を買つたので（流行は一年に二回程急激な變化をしたので）隨分目についた。以前から衣服の改良を考へてゐたが、一朝一夕に行かない事を感じた。私の敎會の一人の婦人（神戸女學院を卒業された英語の素養ある方）が折があれば米國に行きたいと望んで居られたが丁度夫君の許しを得て、同行する事になつた。又娘（青山學院卒業、帝大の聽講生）も米國行を希望せるを以つて四人一緒に行く事となつた。シャトルについて三人の仕度を考へてゐた。九月二十三日に上陸したそしてその夕方集りに行き其翌々日にニユーヨークに立つことゝなりシャトル見物と衣服をとゝのへなければならない。第一等の店へ行つて出來合をみつけ三人の衣服をあつらへたり、冬支度をした。第一に感じた事は英語で名刺を作ることであつた。日本では少くなくも一週間を要するのに三時間で出來上つた又時計の修繕等もわづかな時間で出來たこれ等によつて、如何に米人は仕事に熱心で、且つ忠實であるかを知つた。萬端調へて、九月末に沙市を發しニユーヨークの途中にナイヤガラの見物をして、半日はシカゴの名所を見てニユーヨークに着いた。如何にも繁雜な事に驚く、斯の如き所では會議はとても出來ないのでレークモホンクで各國の代表者八十名集まり、十年會の宣敎師の會議をなし、更にニユーヨークに歸り、ボストンに行く道ニユーヘヴンによる息子が勉强してゐる爲一夜を明し、ボストンに

四日滞在してアメリカンボードの會議に出席した。此處にて日本の讃美歌の編纂者のオーチン先生、又明治十六年頃日本に來ていらつしやつたドクトルベリー等の方々が列席されて、日本を代る〲ほめて紹介して下さつた。そして大變に歡待下さつた。ブラヤクリフでスタンホードとおつしやる日曜學校の代表者として日本に來られた方（洗濯屋の主人）がゐられて大變に喜ばれた。十一月初旬ワシントンに行く途中フイラデルフイヤに行き大富豪ワナメーカー氏に御目にかゝる爲に日曜學校を拜見した。米國で一番親切にして下さつたのはＹＷＣＡで華府會議出席の爲滞在の地を定める爲にミセス、エデイが大變御盡力下さつた。そして日本へ歸つたらどうしてもＹＷＣＡに御禮に行かねばならないと思つた。ワシントンに一ケ月居る間に大統領にも面會し、かくて十二月九日に華府を立ちシカゴに行く途にオハイオのオベリン（日本の牧師などの令息たちが澤山居られる處）に行く、先づ華府から朝九時にたち夕方アクロンに着き翌日フオノベンにて乘換へてオベリンに行く。キング博士など親切にされた。翌日シカゴに雪中着いた。一週間滞在して教會同盟の集會があつた。

ロスアンゼルスでグランドキヤノンに行く、こゝはナイヤガラ、ヨセミチバレーと共に米國に於ける三ツの名所なので思ひ立つて行つた。野原の如き道を三日間旅行しつゞけて行く途中電報で、リバーサイドから在留の日本人は同胞の來朝を待つてゐる、その乞ひのまゝに行く。立派な蜜柑畑があつて、その美事なのに感ず。氣候も大變によろしい。十二月二十五日朝ロスアンゼルスに着き、一週間滞在し女子青年會に働かるゝ山本琴子さんに御目にかゝる、大變に歡迎された。大晦日にフレスノーに行き昔の友達に迎へられてお雜煮を頂いて翌日リヴイングストーンに行く。風もなく、雪もない、そして物貨がやすくて健康によし、又ロスアンゼルスでは日本の八百屋が大變に人氣がよい。カレンツに成功された

大倉土木のある信仰家の方が大變に喜ばれた。十二年前に一家擧つて此處に移つたが妻を失はれたが、はじめに會堂を作つてそれから後に自分の家をたてたそれが昨年九月にやつと出來上つた。一月三日に着いて、桑港で集りをしてハワイを經て十三日にかへつた。五ヶ月に二萬哩をあるいた。

米國で種々な所へも行きましたが大藏省、政廳、海軍省等で女が一番大切な事をして主な事務を取つてゐた。ナイヤガラに着いてシヤトルからニユーヨークまで五日間汽車は走り通しで大變あいた。その時最初に口を開いたのは黑人である。日本人びいきで勞働に從事してゐる。色々とロツキー山などについて話をしてくれた。ステーションにつくと時間を敎へて、私共の多くの荷物を一人ではこんでくれた。ナイヤガラも案内をしてくれた。あちらの人は日本人にかけねを云ふのをしつてゐる、それで朝九時から午後四時までと自働車が二十弗(四十圓)を拂ひやはり山中に瀧があると思つて行くと町の中央にあつたので一つ不思議の感を抱いた。英領と米領との間に橋があつて(旅行免狀の入用を感じて旅を銀行の通をもつて居たので)旅行免狀がなければ橋が渡れないのを丁度もつてゐた爲に難なく渡してもらへた。又ナイヤガラのステーションに黑人に食事を敎へられ、入つて待つてゐたが仲々持つて來ないのでよくみると各自皿に取つて來て勘定をすまして(キャップテリヤ)食卓につく、はじめての事とて失敗した。翌日レークモンドにゆきハドソン河の持主の所に行く世界の代表者の來る事を知り、食事の仕度も調へられた、特別の女の方の外は皆男子で婦人は觀光に行つた。レークモホンクに於ける最初の印象はスマイレー氏夫妻の歡迎で七十三と七十との老夫妻は、わざ〳〵門まで出迎へられ暖い氣持がした。翌朝チャイムの鳴るを聞く。會議かと思つて一室に集ると、主人の朝の禮拜であつた。すべて信仰より來る立派な精神でもてなされ、しかも私共滯在中は客の取りあつかひをされ、世界親善の爲につ

くされた事は實に感謝すべきであつた。ボストンにて西洋人の家に泊る。四五人も子供を持ちながら、女中一人で萬事をなし夫人種々の會合等に行く、歩行の時間を節する爲に自動車を用ふ。道路の清潔なるに驚く（町は夜中に水をまき大きなぶらしで拭ふ）第二にはニューヨークの踏切で、巡査の一擧手一投足でその命に從つてゐる。これは日本に例が少い。米人は上より下まで、自分の仕事に忠實で、しかも責任觀念の强いのに驚いた。最後にフイラデルフイヤに行きワナメーカー氏の日曜學校を見た。又大商店を有されて店員や品物は全く行き届いてゐる店員の病氣等の時にはそれに備へる準備あり。この忙しき支配人の氏は日曜には店を閉ぢて禮拜をする、私が拜見した時は六十才位の老人のみの組で、しかも子供の樣にその命の通り歌も歌ひ、お祈りもした、年も位置も忘れて平身低頭して盡さうといふのが、米人の精神である。ボストンの博物館等にはとても我國でみられない樣な立派な具足、鎧等がある。戰後の米國は大層華美になつて居る樣だが又一方には心から神に祈つて宗敎の爲に盡すことに熱心である。斯の樣に種々の方面で感心をして來たが、カリフオルニヤに居る邦人は敎會に行かない人が多數あるし又今度の會議等で日本からいらしやつた人々がもしクリスチャンであつたらば、如何に國の誇となつた事であらう。代表者の多數は敎會に行かなかつた、或敎會では德川公一行を迎へる爲にリンカーンのかけた椅子などを出してまつてゐたが僅か二三人の人が出席したのみで公は行かれなかつた。米國人に宗敎のある爲めに言語、擧動等すべてにそれが表はれてゐる。日本人の樣に　口先でのお世辭やその他此のお客樣にかうしておけばなどゝいふ心でなく、ほんとに自分の神から與へられた事を熱心に誠實にする爲である。私共は無遠慮に少しでも話せる事はありつたけ話した。これ等も或方面に於る日米親善だと思つた。こゝで私は女子青年會と矯風會とが一致協力して國の爲に盡すべく努めたいと思ふ

（在文責筆記者二月十七日東京女子青年會に於て）

誌友の欄

投稿歡迎

締切毎月十五日

編輯部宛

感ずることども

KK生

親しき先生の御母君遂に召されしと聞き悲みに堪えず。

御母君今や父の御許在につて殊に嘉せられ給ふならんと信ずれど、先生の御心中、どんなで御座いませう。遙に此所渤海の濱邊一僻村に私は三年前御目にかゝりし先生、其後受けし御訓へ、先生をとほしての御母君の事などそれからそれへと考へさせられます。

御母君、長い間の御病床の明け暮れ誰が爲に祈り給ひし。先生の遠つ國に學ばれし又使ひせられし其長い間最も熱心に祈られ居りしは御母君か。命を全うして御歸りの先生は待兼てゐらした御母君に如何に貴い土産を贈られてか。最も忙しい御働きの中にも寸暇をつくつて其床を護られしやさしの御心根、力限りの御心盡し。わけても先生を御自身の子として與へられし母樣の御悦び御滿足如何おはしつらん。其に在世中謦咳に接せざりし私は更らに色々のことを想ひます。山室先生の御母堂禁卵の慈愛と御勵し、さうした力强いかくれし御いつくしみのさも多かりし御事ならん。先生が一度歸省なさると其取返しの爲には可成骨を折らなければならなかつたに相違ない、けれども神宮の流れ淸い靜な森の邊りに母君の病の床に侍らるゝことは、懸命にいつも勞働せらるゝ先生にとりて、憩ひの場所深き祈の所ではなかつたでせうか、先生は其處で力を得て更らに沖へと出られし事と伺はれます。

此沖の海の荒れる日に船は港に戻つて離をさけます。去る日こゝから船出して其避難所を得なかつた私共の店の貨物を積んだ船は遂に沈んで仕舞つた。これから先き先生はどうなさる、何處へ休みに行き給ふかと考へざるを得ない。然し心配しなくてよろしい、大丈夫です。それ處ではない多くの妹が弟が子達が先生の船に綱をなげかけてゐる。召されにし御母君よどうぞ喜んで下さいませ私共の親船には一層の力が加はつて今現に私達をぐんぐん曳いてくれてゐます。

私の居室にK先生とY先生U先生の肖像があります、師より賜ひしものと雜誌より切取りしものと書籍からはづしたものとです。之等の額を見て前に牧師をされてゐた或私の先輩は親切に訓へてくれました、貴君は一種の英雄崇拜者だ、KYUの諸師にもつと近く接する事を得たら恐らくは其偶像は段々と破壞さるゝだらうと、私はだまつてゐた。其人のいふ如くであるかも知れない、ないかも知れない、只崇拜するものは一よりないと自分では思つてゐます。でも私の癖は偉人が好きです、好き以上の憧憬を持つてゐます、偉人と言つては其意がシックリしないが何といつても謙虛にして充實した有意義な生活な實際身に行つて居らるゝ方に對しては讃仰と又追隨したい願とが起つて參ります、（その願望はあさましい私の實生活によつていつも裏切られつゝあるのを悲むけれども）。

今年はこゝの寒さ割合に烈しく今四十哩の沖で一呎の厚さに凍つてゐますそれでスピードの速い新造船が碎氷の役をして二三の自力で進み得ない船は一緒に其後をつけて氷の破れ目を進みます、其は沖待してゐる入港船を

同様にして目的の埠頭へと導いて來ます。尊貴な人生は單に思想や乃至觀念や理窟なんかでは築き上げ得るものでない事を學んだ私共はどうかして自分も進む事、氷のとぢ合はない間にすぐ後をつけて先生達に從ひ行きたいもので御座います。けれども弱い私共實際問題につかまえられてまごついて道を失ひ或は早くも氷の中にとざゝれてしまつてどつちへもうごきがとれなくなる時があります其時には漸く先生の聲が耳に入らないのです、はじめはかすかに聞こえてゐても後にはもう自分から聞くまいとする氣さえ起るのです。

書生の不徹底な感想をも一つ御許し下さい毎年自分の誕生日に其事を通知して親の愛を味つてゐた私は去る日それをしなかつた、そして家鄕でも恐らく其日を忘れてゐるだらうと思つてゐた、所が母は手紙の中に二三粒の赤飯と共に斯く申す事を忘れなかつた即ちあんなに毎年其日を覺えて下さいと頼んで寄越したものを今年は言って來ないのは何か心配事でもあるのではないかしらんと。私は其數粒を口に入れて人なき所に出て行き泣いて父様に祈つた實際私は當時問題の爲に親や師の愛完全な父の愛まで拒まんとしつゝそして一人て困つてゐた。思ふ先生の許にある多くの青年女子男子、時に惱み悲みの爲に或は薄氷の上を渉る好奇の爲に遂に先生の聲の遠かるのを覺える樣な事はありはしますまいか。願はくは主にありて我等を呼ぶ先生の聲のとゞく所迄走つて行きたいそして先生私は今こゝをついて行きよりますと申上げて喜んでいたゞきたいその祝福をうけたい。

この願ひがいつも繰返さるゝ夢であつて其夢の中に僅な慰めを見出すといふのでなしに目を醒し靜にしてよりたのみつゝ奉仕の一端に如何にもして走せ參ぜん事を希ひ僞なき生を送りたい。さうして私共の知れる知らざる人々の愛と深い父の愛に報ひ奉らんと努めたいので御座います。

我等の父よ、願はくはよき母よき姉妹よき子等を與へて御名を崇めしめ給へ。

○

拜啓當女子青年會も會員諸氏の厚き御同情と御援助により各方面發展に致し在羅同胞婦人方のため貢献いたし居候事を深く感謝いたし居候

今夏以來幹部、幹事其他に多くの移動ありしにかゝはらず幾分の事業を婦人社會になし得し事をよろこび居候。左に新年と共に繼續しますく發展いたさせたい事業を記し御目にかけなほ一層の御援助を願ひ度く候。

一建築資金募集 大方の御同情により現金三千弗近くを得、猶ほ豫約二千弗及新しき募集を新年と共に再び開始したく存じ居り候

一寄宿舍移轉 一時會の經常費を節約し右資金募集に力を集注するため今回寄宿舍をボイルハイドに移す。新番號一四三一ペンシルバニヤ、アベニュー(ボイル五五三一)

一下町集會所新設 各種の集會(女青以外の有益なる會合にも貸す)圖書室各種研究會。婦人子供休所(料理、裁縫、聖書、英語、帽子、製造、禮法)ストーリ、アワー(幼年幼女のため、白人敎師)帽子製造の組、火、金午後七時—八時(電話二五二九七)

一上町研究會 ボイルハイト西洋料理研究會。毎週木、午後二時—四時

西三十七街英語研究會毎水、二時—三時

一新渡米者訪問 なほ公立學校英語の組へ御入學希望の方の紹介もいたし候其他ハウス、ウオーク、スクールガール等の職業の御世話も致し候先は右御通知まで

米國ロサンゼルス、サンペドロ街二一二

女子青年會

婦人子供休憩所設置の件

此春東京上野公園で平和博覽會が開催さるゝとの吉報が歐米に傳りますと、此際日本の思慮ある婦人達は如何なる社會奉仕の計畫があるかと該地の婦人團體、或は個人から屢々私共に質問して參ります。是は彼地に博覽會などのあります場合必ず眞面目な諸團體、特に婦人會などが會場内で私慾のない社會奉仕をすることを恒例とするからであります。こゝに於て我日本基督敎女子青年會は、平和博覽會に於て適當な建物を造り、婦人、子供の方々の爲に無料休憩所を設置いたすことになりました。

此休憩所が地方から見物に來らるゝ各階級の婦女子のお世話や相談對手の場所となり、或は疲れた母親の爲には托兒所となり、會場内の約千人の女使傭人の休憩所にもなり度いと思つて居ます。同時に室内には案内所を設けいろ〳〵の問合せに應じ、婦人子供の好伴たるべき書類など備へつけ、家庭製作品や、婦人の參考になる品々を陳列し、又淸潔、優美、衞生を兼備した喫茶室を設けて家事參考の資に供し又常に二三人の幹事は會場内の諸所に出張して公衆の便宜を計り度いと希望して居ます。此事業は我女子青年會中央委員の一人なる東京女子高等師範學校敎授大江壽美子女史その監督となり高等敎育を受け色々の方面に經驗ある婦女子が各部を擔任して職を完うせんと致して居ります。特に平和博覽會の名を慕ふて此好時期に外國からの遊覽者も多かるべくそれが爲には語學の素養ある者を置いて接待に不自由ないやうつとめ度いと思ひます。かうして日本女子はたゞ藝者おどり、興行物などばかりで公衆を樂しませて居るのでなく、眞面目な奉仕の爲熱心に活動して居ることも外人に示すは確かに日本婦人の本

分の一と存じます。而し見られんが爲にするのでなく、奉仕し得んが爲の擧である事は勿論であります。

平和、婦人問題等に注意せらるゝ方々の御同情により此計畫を成功させて戴き度ふ御座います。此擧の爲には少くとも二萬五千圓の資金を要します。人物も、材料も入用です。御志のある方々は何卒資金への御寄附なり、無給料働の御申出なり、材料の御供給なりどし〳〵遊して下さいませ何物よりも勝つて本事業の成功せんことを熱心に御祈り下さいませ。有形、無形の御援助を切望いたします。

日本基督教女子青年會本部

本部會計報告（御寄附金）

金貳拾五圓也　ミス、エルナ、アレン
金貳拾五圓也　ダクター、リード
金拾圓也　ミセス、レーシー
金拾圓也　ミス、ハミルトン
金拾五圓也　ミス、マーシ
金拾圓也　東京女子大學青年會
金七圓也　ミス、アームストロング
金參拾圓也　井上友子氏
金貳拾四圓也（維持費二口一ヶ年分）　ミセス、ハナフォード
金貳拾五圓也（同上廿五口一月分）　河井道子氏
金拾貳圓也（同上一口一ヶ年分）　野村美智子氏
金拾貳圓也（同上一口一ヶ年分）　ミス、マキンタッシュ
金壹圓也（同上一口一月分）　三輪田眞子氏
金壹圓也（同上）　加藤高子氏
金壹圓也（同上二月分）　岡崎小文氏
金五圓也（同上五口二月分）　松岡鎮枝氏
金壹百圓也（本部負擔金）　東京女子青年會
金拾圓也（同上）　橫濱女子青年會
金六圓也（同上）　東洋英和青年會

萬國基督教女子青年會本部負擔金

金六拾圓也　橫濱女子青年會

博覽會事業の爲として御寄附金（二月十七日まで）

金參拾圓也　最上夫人
金五拾圓也　秋元俊子氏
金拾五圓也　高橋たか子氏
金參百圓也　鈴木孝子氏

計　參百九拾五圓也

中歐學生救濟御寄附金第二回送金

第二回送金（一月廿三日）

金壹千圓也

東京基督教女子青年會報告

新らしき試。　一月より日曜毎に日曜懇談會を設け各クラブは主催者となりてその會を司る。來會者は何人を問はず歡迎す。今日迄の成績は思ひしに優る佳良にして一同益々興味を持ち居れり。

一月十六日より一回僅か十五錢の輕便夕食を初む時は五時より七時迄。　三十一日迄の計算にては晝食人數二百四名、夕食人數七十一名なりき。

敎育部。　二月一日より毎水曜日六時より七時迄商業英語科新設されオフィスに必要なる普通英語。禮儀作法などを含む。敎師ミス、レーシイ。月謝。金二圓

體育部。　一月より毎水曜日、四時より五時迄バスケットボールの組開始されたり。

二月十日男子青年會主催の下に六回に渡るジムナスライイツクダンス研究會開かれ、師としてミスフエリス聘せられ本館體操室にて行はれたり。出席者は多く小學校の敎師にして五十餘名なり。

家庭部。　二月四日六時より家庭親睦會ありたり出席者五十五名にして相變らざるの盛大さなりき。

二月三日看護婦同志會五時より、二月八日六時よりフエローシップ。オフレカンスイリエーションの會於パーラー開かれ、兩日とも評判よき青年會獨特の料理出されたり來會者八十餘名。

商工部。　一月二十五日午後六時よりクラブ總會を開く來會者九十名。夕食の後各クラブより十月以降の諸報告、次いでミス、フエリスのリクリエーションに關する有益なる御講演をきゝ八時半より四階に新らしく設けしクラブルームの開場式をなし荒川商工部委員長の挨拶ありたり廣からぬ四階裏なれど心入りの裝飾にて思ひがけぬ心地よき場所とはなりぬ

二月十一日紀元節の佳日に社會事業の一なる巡回産婆の爲め金三百圓宮内省より。金若干圓東京府社會課より寄附ありたり。

「旅行者の友」はそれに對する設備。經費。適當なる其人なき爲にて十年十二月末日を期して中止したり。

横濱基督教女子青年會報告

宗教部。(一)來る二月二十四、五、六の三日間河井先生をお招きして傳道集會を催す筈、此の好機が願くば會の內外の人々にとつて惠みの時、救ひの日たらん事を。(二)日曜禮拜、今學期に入り山田千代子、増田金之助稻垣すみ子の諸先生の御來會を得て毎會盛會なりき。時にフェリス女學校有志の方々の四部さへ加はつて聖なる趣を深くせらる。

教育部。 西洋料理科、教師として新しく來られしミセスグリーンは既報の如く英國第一流の家政學校御出身にて殊に巧みに敎授さる。皆大いなる興味をもつて出席し居れり。

移民部。 縣廳の講習の餘暇實地研究としてメンデルソン夫人のお宅に訪問し夫人より實に有益なる御說明を受く。途中日本婦人特色として非難さるゝ步行改善のため山手を十四名步行練習せし日も樂しき思出でなりき。

クラブ。 ルイズクラブにては當市各女學校の本年卒業すべき人々の爲に去る四日午後集會を開きマクドナルド先生を東京よりお招きして有益なる御經談を開く。(二)支那女學生クラブ。同クラブにては支那元旦にあたり。ルイズクラブ會員を招き親睦會を開く。支那クラブは益々秩序的に進步し來れり、毎週のクラブ日にあたり十名餘の出席者あり。(三)夫人クラブ來る二十一日加藤視學をお招きしてお講演を乞ふ筈本會々長室原夫人の關係せらるゝ當市女中會へ本會幹事時に出席し話をなす。去る十三日は日比姉「時の價値」につき話されたり。同姉は又過日共立女學校に於ても一場の有益なる話をせられたり。

大阪基督教女子青年會報告

過る一ヶ月の出來事と將來の計畫とを簡單に申上ます。一、敎育部主催のレコード音樂會は六十圓餘の純益の外に、此企を助ける爲め會員の有志が寄附せられたる二十圓といふ副收入もありました。其上

樂器店主の好意が加はり終に二百圓のオルガンを當會の財産中に加へる事が出來ました。次はピアノの番です。氣の早い私達は委員の一人に御願して既に一臺獨逸へ注文して戴く事に定めました。一、朝鮮人金氏の働は當館内の一室を事務所に當て着々活動の準備中です。何しろ當市には一萬人からの鮮人が居り其中四千人は婦人であるのに彼等の爲め未何等の慰安の道も向上の機關もないのですから、金氏夫妻の將來には大きな働の原野が開かれて居るわけです。青年會の厚意に對していつも感謝して居られます。一、當館が追々他の會の爲に借用せらるゝやうになりました。一月中女子英學塾の讀書會が一回、同々窓會關西支部の委員達の會合が一回開かれました。來る十九日には隣家幼稚園の母の會が催される事になつて居ります。一、從前毎週一回宛開かれました社會學は講師の御都合により暫く休講になりましたのでその代りに讀書會を開く事となりました。第一回は二月四日開かれ山本つち子夫人はジャストデビッドといふ美しい物語を紹介せられました。第二回は來る十八日、淺井治子氏が「河上博士の社會問題管見」を紹介せらるゝ事になつて居ります。一奧樣クラブ第一回を十三日に催しました。若い元氣な奧樣が八人程お集りでした。當日はミスレーガンの社交に就てのお話を伺ひ、星野百合子氏のピアノの獨奏等もあり、次回の計畫を御來會の二夫人に御伺ひして散會いたしました。初めての會合に似合ず極く打とけた氣持のよい集りでした。一、古屋女子英學塾クラブも追々組織立つて來ました。ミスレーガンと鈴本さんとが一生懸命に指導して居られます一、二月二十五日夜市民館で音樂會を開く事になりました。出演者は會員の有志と最近歸朝せられた聲樂家照井榮三氏とです。目的は經常費の爲で主催は教育部です。

遺愛女學校女子青年會報告

立春とは申しながら寒さ殊外嚴しゆう御座います

本部の皆樣には益々御健かに御活動の中に榮ある十一年の御代迎へられたこと〻蔭ながら御喜び申し上げます。

さて私共女子青年會に於きまして例年の如く去る二月二日第一の木曜日に年會を開催し、新役員左の如く選擧されました。

大正十一年度役員

會長　佐治清
副會長　猿川ヒデ
會計　須藤秀代
同　成澤たい
記錄書記　小山ユリ
通信書記　田中久米

各部部長

宗教部　汲川ミトシ
同顧問　本目テイ
傳道部　服部ユリ
同顧問　井手のぶ
社會事業部　石澤敬
同顧問　佐々木みとし
財政部　船越谷イマ
同顧問　堀川ミチ

今年も私共一同最上をつくし神の御力のもとに及ばずながら本部の御事業の一部なりとも御助けいたす決心で努力いたします。何卒相變ず御導き下さいます樣に御願ひ申し上げます。

ます〳〵本部の皆樣の上に天よりの豊かな御惠みと尚一層の御力が加り以上に會の御發展を御祈り申し上げます。

梅花女學校女子青年會報告

神の御惠の下に我校の青年會は愈々盛大になりつ〻ありますので感謝いたして居ります。左記の通りの順序に致して居ります。

一、講演會
二、仕事會（讃美歌練習會）

三、聖書研究會
四、辯論會(祈禱會)

二と四の二つ書いてありますのは代る〳〵にいたします。講演日に城のぶ子先生、淺井治子先生の有益な御話を承りました。仕事日は近頃袋物の編物をして居りまして、讃美歌練習日は本年は熱心にし美しいコーラスを作る樣勵んで居ります。辯論會は大變宗敎的になり多くの人々が聖書を研究する樣になりました。祈禱會は昨年は當會にはありませんでしたが昨年開催された夏期修養會の賜物として其の清い集が出來、祈りによつてより以上宗敎的になりより以上多くの人を導く事が出來るとよろこばしく存じて居ります。現在の會員二百八十三名、出席者平均百名でございます。

宮城女學校女子青年會報告

春よ起きよと神宣へば——

皆暖かい春の來るのを待ちつゝ元氣に働いて居ります。幾年ぶりの寒さとか仙臺特有の空つ風に流石北の子等もずゐ分今まで困らせられました。

明日(二月十四日)は尙絅と私共の青年會主催で歐洲學生救濟義捐金募集のため慈善音樂會を開くことになつて居ます。委員も會員もみな一生懸命其のために働いて居ります。

仙臺の市中に色々な會があるために今までになく入場券販賣に苦勞させられました。通りに掛けられ居る幾枚ものポスターの中一番目に立つてくれゝばいゝがなどゝ思つたり致します。今夜は靜かに皆で明日の成功を祈つて居ります。

得ましたお金は全部本部の方にお送りしてその方面と修養會場建設のためにお用ひ下さる樣お願ひ致し度いと思つて居ります。時々こちらの狀況をお知らせしたいと思ひながら遂後れてばかり居りましたお申わけも御ざいません。昨年からの色んな催しなどもお知らせ致したいのですけれど只今忙しう御ざいますから失禮では御ざいますが追てお便り致します。(二、一三)

消息

□ミセス、ウッド　二月上旬再び關西に赴かる

□ミス、アームストロング一月下旬歸京目下はミスピットガアンを案內して諸種の學校を訪問されつゝあり。

□ミス、ピッビガアン　佛の人で旅行幹事として有名なる氏は二月十日ミス、テエーラーの一行と共に着京され一行と別れ一ケ月間日本に滯在諸學校を訪問し講演をされつゝあり二月廿五日には男子青年會館にて男女學生の爲に講演さるゝ筈。

□ジーマン氏　先日火災の難に遭はれ全燒一物をも出し得給はざりしはお氣の毒の至。

□釜屋壽子氏　此程栗原氏と御婚約をされたり。

□石渡久子氏　過ぐる二月四日結婚せられ近々御渡獨の由。

□高橋たか子氏　石渡氏と同じく東京青年會の英語の組を敎へ下されしが此度御渡米の由。

□ミスパイダー　昨秋御母君に危篤の爲に歸米されし同氏は二月の初に再び來朝されたり。御母君は同氏御歸國後三週にして美くしく、安らかに御永眠。

□原すゑの氏　東京青年會員の同氏は一月廿六日御永眠せられし旨通知ありたり哀悼の意を表す。

□ミステーラー　一行十五人は二月十日着京、十一日午後小石川ニトベ邸にて國際親交部の主催にて姉崎博士を聘して宗敎動搖と産業問題に關しての御講演會を開き、一行及小數の內外人を招待したるが一行は之に臨み大に得る處ありたり、十二日夜は東京橫濱及本部の幹事達はニトベ邸にて此の一行と夕餐を共にし歡談に時をうつし最後に河井氏及びミステーラーのお話、マダムシエラー、ピトガンの御挨拶あり九時頃散會す翌十三日は一行は鎌倉見物に行き同夜京都に向ひ神戸より渡支四月中旬櫻の盛りに再び上京當地視察の豫定なり。

□北米男子青年會　同會は本年末までに百萬の會員を得んとつとめつゝあり。千九百十一年四月に五十三萬六千三十七名なりし會員は十ケ年後即千九百廿一年には九十三萬五千五百八十一名に增加したり。現今世界中に九百の青年會ありて約百五十萬の會員を有す。

編輯室より

誌友の欄。讀者諸姉妹の御體驗なり或は御感想は時代の聲としてどんなにか本誌に生命を與へ、お互に省察し勵まされる事でせう。何卒此欄を賑はして頂き度いのですどし〳〵御投稿下さいませ。締切は毎月十五日御寄稿は編輯係宛に御送り下さい。

誌友への願。皆樣新しい友を得る喜びはどんな大なものでせう。本誌の購讀者增加は何と申祝福でせう。若皆樣が一人或は二人づゝの新購讀者を御紹介さるならば小さな努力で大な結果が得られます。本年のクリスマス迄に現在の誌友の倍を得られないものでせうか。皆樣の御援助によつて此希望は到せられます見本は御申込次第御送り致します。

女子靑年會では一體何をして居るのか知んと思し召す方は何卒各市部及學生部の月々の報告を御覧下さい。もとより仕事の全部は語りませんけれども其一般が知れます。

現時の世相。新聞に現れる世相は私共に樂觀を許しません。各自内に深く省察して實力を養ふことは目下の急務ではないでせうか。文化の流が進展する時優しい、美しい、强い、力あるゆたかな人格者が多く出現しなければ眞の平和が參りませぬ。諸姉と共に滿され度い望に燃えて居ます。(こふみ)

備考

一御注文は一切前金に願ひます
一御送金は振替でお拂込み下さる事が便利で安全です。但手數料一錢をお加へ下さい。郵便切手代用は一割增

振替東京二三七二三番

定價郵税共

	内地	海外
一部	金貳拾錢	金貳拾四錢
一年前金	貳圓	金貳圓五拾錢

廣告料

一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正十一年二月廿六日印刷納本
大正十一年三月一日發行

神田區錦町一丁目十六番地
發行兼編輯人　河井道子

東京市芝區櫻田和泉町七番地
印刷人　前川吉治郎

右同所
印刷所　三成舍

神田區錦町一丁目十六番地
發行所　日本基督敎女子靑年會
電話神田三六五二番
振替口座東京二三七二三番

meeting oftener during the week, and having a large range of subjects. Since the Victrola concert given before Christmas in order to purchase an organ, two money gifts have been received, and now we are rejoicing in the possession of a two hundred yen organ earned by the efforts of the younger members of the Association·

The Sociology class of the Association has been discontinued for this term but the same girls are continuing with a Reading Circle. The first afternoon Mrs. Yamamoto told the story of "Just David". Mrs. Yamamoto is the translator "Pollyanna", so everyone knew the time would be well spent, and many girls were present. Mrs. Yamamoto has also translated for us "The Hymn of the Lights", which has been sent around to the other Associations.

There are about ten thousaud Koreans in Osaka, four thousand of them being women, most of whom are employed in factories. Mr. and Mrs. Kim who live in Kyoto are working also for these women in Osaka, and as their work has become heavier they must spend more time in the city. The Association has loaned them a room for their office. In time we hope our aid will assume larger proportions.

Miss Asai spoke at a meefing of the Student Association of Baika Girl's School. Two new clubs have been started, one among girls of Furuya English School, the other among young married women. Several of the latter were strangers to each other, but the atmosphere of the first meeting was unusually easy and friendly and interested.

There has been a good deal of illness among the membership during this past month. We especially sympathize with our president, Mrs. Asai, who lost two children within two days of each other, both of whom had been ill for some time.

KYOTO

The Kyoto Association is preparing for a small exhibit of foreign clothes for children on the 25th of February. The origin of this exhibit was the request of the head of the Social Bureau of the city to the United Womens' Societies of Kyoto to do something to help mothers who were dressing their children in foreign clothes.

During February the Association is entertaining in turn the fifth year High School girls and the three College Classes of the Doshisha at the building. A knitting class for the High School girls is being started at their request and it is to be taught by one of the members of the older knitting class in the Association.

It has been decided to have an open house for students on one Saturday afternoon of each month at the Association. All the club and class members as well as others in the Association will be free to invite their friends on these occasions.

On the 17th of February Miss Nishino will speak both afternoon and evening at the Association–in the afternoon to students and leisure women and in the evening to business girls. Miss Nishino gives an explanation of the Christian life that is particularly appealing to the women here and we are always sure of a group of eager listeners.

The Kyoto Association is rejoicing in the fact that one of the Kyoto girls is going to Tokyo in March to attend the Training Class for secretaries.

The Association is starting a series of social events for young married people in the city and the first affair took place on the evening of February 11th.

The outstanding events of the month have been two visits,—one, on January 20th, from Mrs. Wm. Merrill Vories; and the other, on February 15th, from Miss Taylor and her party. Mrs Vories came in fulfilment of a promise made long ago, and spoke in the morning to a large Bible class group—in the afternoon to a meeting for the combined neighborhood clubs. Several worthwhile women were attracted and came to the Association for the first time to hear Mrs. Vories speak at this meeting. After more than an hour's address on Community Spirit as it is in actual operation in Omi-Hachiman, the women were loath to leave, and asked many questions. Almost everyone present participated in the discussion, during which it was evident that the new idea (Community Spirit, for which there is no adequate word in the Japanese language) had begun to permeate the group.

Miss Taylor's party found their Empress' sailing postponed and so they were in Kobe for an unexpected day. Miss Taylor spoke to a voluntary Bible class of about fifty girls at Kobe College, and at the Congregational Mission prayer meeting. Meanwhile the most of the party were visiting the Shinkawa district and the Emigration Institute at the Y. W. C. A. In the evening they extended their hospitality to a number of Kobe missionaries at a gyunabe supper. In this delightful setting three of the party, the Misses Pierce and Miss Sisson, sang negro dialect songs, and many new friendships were formed. The inspiration of meeting women just arrived from America, is not to be forgotten, nor the stimulus of their questioning interest. Every moment was pervaded by Miss Taylor's loving, comfortable and all-conquering faith, which also was left behind her with us as an almost-tangible spiritual possession. Mrs. Vories, with her serene and settled peace and real humility, and her quietly active personality, had left a similar Gift. Thus in less than one month these two women, from contrasting experiences and opposite ends of the earth, have come as our guests and enriched us with unforgettable impressions of the deep content, the unlimited power, of life that is lived in identification with God.

OSAKA

The New Year started off with a large Board meeting, which was a joint New Year's party and a lively discussion of the buildings needed in the near future by the Association. Several special meetings have since been held, and the plan now is to have a finance campaign first for a dormitory for young business women, then later to undertake a central building. Four well-known men in Osaka have consented to help us with their advice, and have already given us much time. Miss Kawai and Miss Scott were both present at these meetings, and Miss Ragan spent a week in Tokyo in connection with the possible campaign.

The regular work of the Association opened with a party of the B. G. Club early in January. Miss Asai is teaching the biginner's class in the night School, Miss Steinmetz has her class in chorus-work at Furuya English School, a new singing class of young men and young women in an English Night-School, besides her choruses at the building. The Educational Department is reorganizing its work, with Mrs. Tsuchiko Yamamoto as chairman and some new members added to the Department. The classes are to be made more nearly like a school,

Department and The Social Service Department of Tokyo-Fu gave gifts as usual to various social service organizations in the city. Among the two hundred organizations investigated by the Household Department, forty eight received money, and the Tokyo Association felt greatly honored to receive Yen 300.00 for the work of the visiting nurse in Oji. A notice has also come from the Tokyo-Fu office that a grant has been made for the work in Oji, but the amount has not been named.

YOKOHAMA

The Yokohama Association members are eagerly anticipating Miss Kawai's Evangelistic meetings which are to be held on February 24th, 25th, and 26th. The subject is to be "Christian Fundamentals," and we are looking forward to the deepening of the spiritual life of the Association as a result of the inspiration which we are sure will come.

Two young women who are making a trip aroud the world are guests at The Residence this week–also there are two business women who are on their way to China.

Mrs Murohara is one of the advisers of a club for girls, who are employed in the homes in Kanagawa. Miss Hibi spoke to the member of this Club recently on the subject "The value of time". She also spoke to the Y. W. C. A. meeting of the Kyo-Ritsu Jo-Gakko, on the subject "Service". New members were welcomed to the Association at that meeting.

One of most interesting events during the last month was the party which was given by the members of the Chinese Club to the members of the Louise Club. It was a real Chinese party, for the decorations, the program and the refreshments were all Chinese.

At this time many girls and women are sailing for America and other foreign countries and the Y. W. C. A. work at the Emigration Government Building has very much increased. A group of 30 girls who were to sail within a few days were entertained at the home of Mrs Mendelson and at The Residence in order that they might see something of foreign homes.

KOBE

The Kobe Staff has weekly staff Bible class after the manner of the Tokyo Association, using Fosdick's "Manhood of the Master," with very happy results. As the text is available both in English and Japanese, our bi-lingual problem is solved, and each weekly subject,–the Master's Joy, His Magnanimity, His Indignation and His Loyalty,–have been really assimilated through our heightened staff fellowship.

It has became a problem to accommodate the increasing enrollment of the handcraft classes–knitting and cooking, in both of which applicants have had to be refused–and also in one of the morning English classes,–Miss Onomi's class of beginners.

In girls work Miss Chappell has started a new English class group, a second one, from the Kenritsu Jo-Gakko, in preparation for the formation of a club. And three meetings have been held preliminary to forming a club of teen age nurses, of which Miss Yamamoto, the nurse on our staff, is the leader.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume 19 March 1922 Number 3.

NATIONAL

At its meeting on February 15th the National Committee, after many discouragements, decided to go ahead with definite plans for erecting a building and carrying on work at the Peace Exposition in Ueno Park, from March 10th to July 31st of this year. This will consist of a rest room, tea room where light refreshments will be served, a small library, and an information bureau. A large number of visitors are expected at the exposition and it is hoped that this work will spread the knowledge of the Association in Japan. There will be about one thousand girls and women employed on the grounds and plans are to serve them in all possible ways.

Mrs Sumi Oye, a member of the National Committee, and a teacher in the Tokyo Higher Normal School, will be chairman of the committee in charge of the work.

The party from the United States, traveling with Miss Taylor and Miss Edith Keely, stopped in Japan for a few days, on the way to China. Plans are being made for their visit in Japan on their return about the middle of April.

TOKYO

The Club Room on the fourth floor was formally opened on the twenty-third of January. Between seventy and eighty girls had supper in the living-room on the second floor, and after reports from the presidents as to club acitivities, they formed in line and to the tune of one of the Girl Reserve songs marched to the fourth floor, and assembled at the door of the Club Room. Mrs Arakawa, Chairman of the City Committee, read a Dedication Service, and presented the room to the girls in the name of the Tokyo Board. A member of the Yusen Club, the oldest in the Association, accepted on behalf of the girls. The members of the clubs had made pretty orange and brown curtains, bright rag rugs, and the whole room was most attractive and cosy.

This fall a thirty sen semi-foreign lunch has been served at noon to the staff and members of morning classes who might care to stay for the afternoon, and during the mouth of January 204 meals were served. As this experiment has been so successful, it was decided to serve an evening lunch as well for girls coming to evening classes, many of whom come directly from work, and often have no food till they get home late in the evening. A simple dish of hot rice with a vegetable or fish stew over it is served for fifteen sen, and in the first two weeks, 71 meals were served.

Miss Ferris is conducting an institute of twelve hours for teachers of gymnastics, and fifty five men and women have enrolled.

On the 11th of February, Kigensetsu, The Imperial Household

女子青年界第拾九卷第三號（毎月一回一日發行）

大正十一年二月廿六日印刷納本 大正十一年三月一日發行 明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

一部定價二十錢

